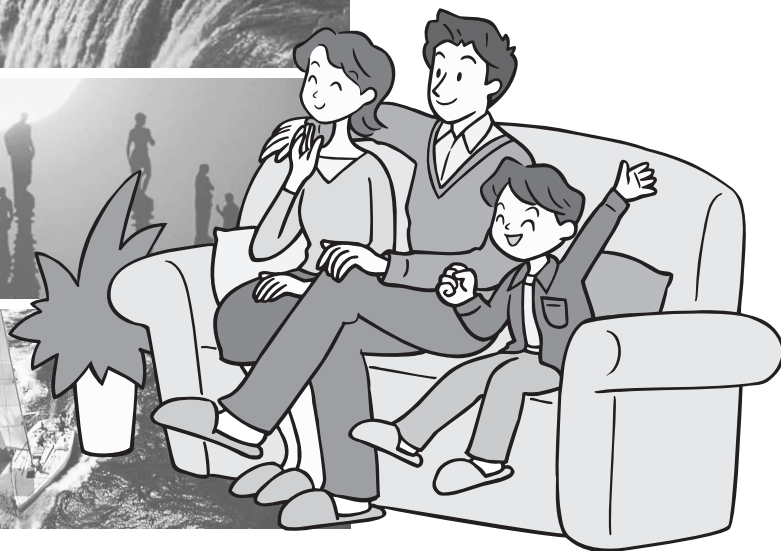
Panasonic

取扱説明書

ホームシアターオーディオシステム

品番 SC-HTR300
SC-HTR200

イラストは SC-HTR300 です。

このたびは、ホームシアターオーディオシステムをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

保証書別添付

- この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
  特に「安全上のご注意」（→ 31 ～ 33 ページ）は、ご使用前に必ずお読みいただき、安全にお使いください。
  お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。
- 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

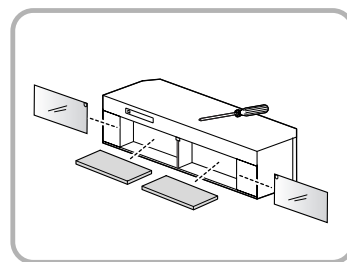
上手に使って上手に節電

ホームシアター完成までの流れ

ホームシアターを楽しむための流れです。
別冊の『かんたんガイド』もご覧ください。
代表的な接続や再生方法を分かりやすく説明しています。

本書では、特にことわりがない場合、システムのイラストはSC-HTR300を使用しています。

ラックを設置する（➜ 8～11 ページ）

設置後、棚板やガラス扉を取り付けます。

テレビとレコーダーを接続する（➜ 12 ページ）

（本システムには、テレビやレコーダーなどの各機器は含まれておりません。）

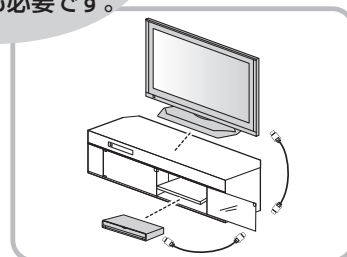
HDMI ケーブル（別売）で接続します。

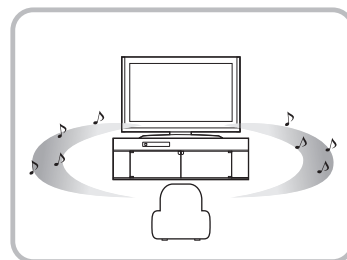
HDMI ケーブルで接続すると、DVD などが高画質・高音質で楽しめます。

HDMI 接続するには、テレビとレコーダーの両方にHDMI 端子が必要です。

■ テレビの推奨サイズ
SC-HTR300: 50 インチ以下
SC-HTR200: 42 インチ以下

☞ HDMI 端子がない映像機器を接続する場合は…13 ページをご覧ください。

テレビの音声をサラウンドで楽しむには、光デジタルケーブル（別売）の接続も必要です。

映画や音楽を楽しむ（➜ 18～21 ページ）

DVD やテレビなどがサラウンド音声で楽しめます。

お持ちのテレビ（ビエラ）やレコーダー（ディーガ）がビエラリンク対応の場合

本システムのリモコンで、ホームシアターがワンタッチで楽しめます。
（➜22 ページ）

もくじ

「安全上のご注意」を必ずお読みください。
（→31 ～ 33 ページ）

まず

準備

楽しむ

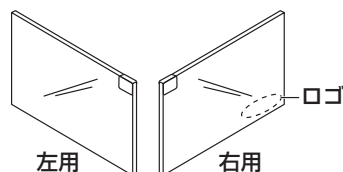
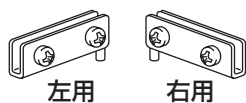
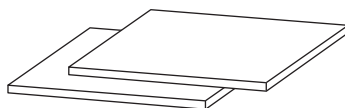
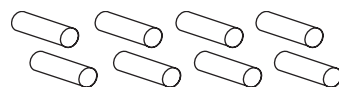
ご参考

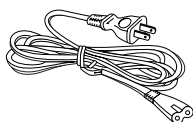
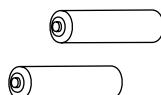
付属品

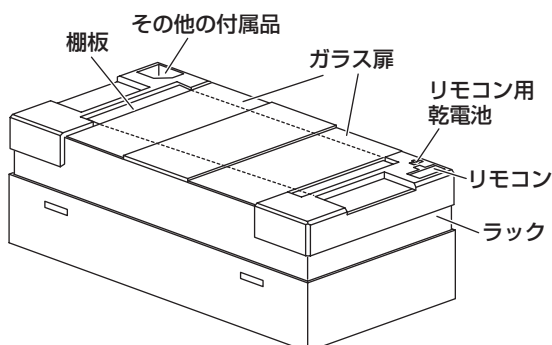
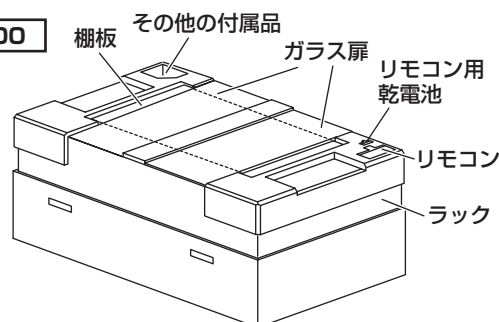
付属品を確認してください。

- 付属品の買い替えは、お買い上げの販売店にご相談ください。
- かっこ【　】内は、買い替え時の品番です。
  (品番は 2007 年 1 月現在のものです。品番は変更されることがあります。)
- 電源コードは、本機専用ですので、他の機器には使用しないでください。 また、他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。

ラックの付属品

□ ガラス扉（ロゴのある方が右用になります。）
SC-HTR300 : 左（1 枚）【RXQ1536】
右（1 枚）【RXQ1536A】
SC-HTR200 : 左（1 枚）【RXQ1538】
右（1 枚）【RXQ1538A】

□ ヒンジ :
左（1 コ）【RXC0030】
右（1 コ）【RXC0030A】

□ 棚板 SC-HTR300 :（2 枚）
【RKQ1G0002-K】
SC-HTR200 :（1 枚）
【RKQ1G0003-K】

□ 金属ダボ
SC-HTR300 :（8 個）
SC-HTR200 :（4 個）
【RMQ1607】

アンプ用の付属品

□ 電源コード（1 本）
【K2CA2CA00010】

□ リモコン用乾電池
（単 3 形 : 2 コ）

□ リモコン（1 コ）
【N2QAYB000149】

包装仕様図

別売品のご紹介

コード/ケーブル名	長さ	品　番
HDMIケーブル	(1.0 m)	RP-CDHG10
	(1.5 m)	RP-CDHG15
	(2.0 m)	RP-CDHG20
	(3.0 m)	RP-CDHG30
光デジタルケーブル	(0.5 m)	RP-CA2005A
	(1.0 m)	RP-CA2010A
	(2.0 m)	RP-CA2020A
	(3.0 m)	RP-CA2030A

コード/ケーブル名	長さ	品　番
ステレオピンコード	(0.5 m)	RP-CAP3G05
	(1.0 m)	RP-CAP3G10
	(1.5 m)	RP-CAP3G15
	(2.0 m)	RP-CAP3G20
	(3.0 m)	RP-CAP3G30
	(5.0 m)	RP-CAP3G50
	(10.0 m)	RP-CAP3G100

ケーブル類は、置き方や接続方法などにより、必要な長さが異なります。ご購入の際は、長さを十分確認してください。

別売品の品番は、2007 年 1 月現在のものです。品番は変更されることがあります。

お知らせ

接続するケーブル端子の形状によっては、以下の点にご注意ください。
(特にイコライザー付き HDMI ケーブルは、プラグの形状が大きいため、注意が必要です。)

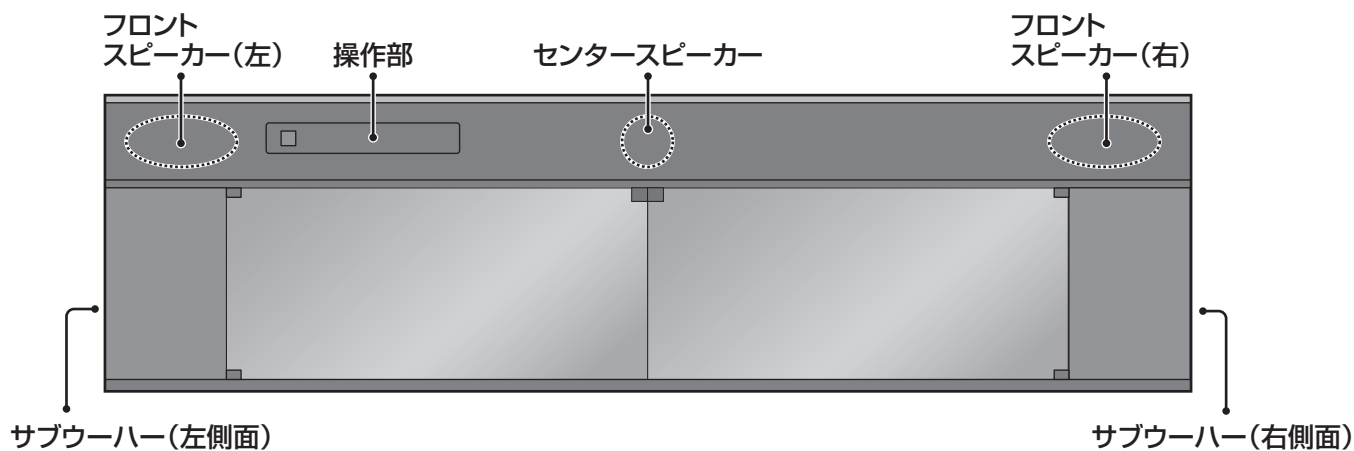
- 本システムを壁に付けて設置した場合、ケーブルが折れ曲がり、破損することがあります。十分確認のうえ、設置してください。
- 接続した機器を収納する場合、ケーブルが後面に当たり、正しく収納されないことがあります。背面板の切り欠き部を取り外すなどしてください。

付属品と別売品は、販売店でお買い求めいただけます。
松下グループのショッピングサイト「パナセンス」
でもお買い求めいただけるものもあります。
詳しくは「パナセンス」のサイトをご確認ください。

http://www.sense.panasonic.co.jp/

各部のはたらき

本体

SC-HTR300（前面）

SC-HTR300（後面）

SC-HTR200（前面）

SC-HTR200（後面）

各部のはたらき（つづき）

操作部

音量を調整する（➜ 18ページ）

本システムの電源を「入/切」する
（ ➜17、18ページ）

入力を切り換える
（➜ 18ページ）

機能待機ランプ
（➜ 17ページ）

ゲーム（サウンド）を使う
（➜ 24ページ）

電源 ⏻/I 機能待機 音量 − ＋ ゲーム（サウンド） 入力切換

表示部

入力信号の判別方法を PCM に固定したときに表示（➜ 27 ページ）

デジタル信号が入ったときに表示（➜ 19 ページ）

PCM デジタル入力 AAC DIGITAL DTS VS SFC PLⅡ 2CHMIX kHz

入力信号の判別方法を DTS に固定したときに表示（➜ 27 ページ）

サラウンドデジタル信号 / 音場効果（➜ 21 ページ）

情報表示

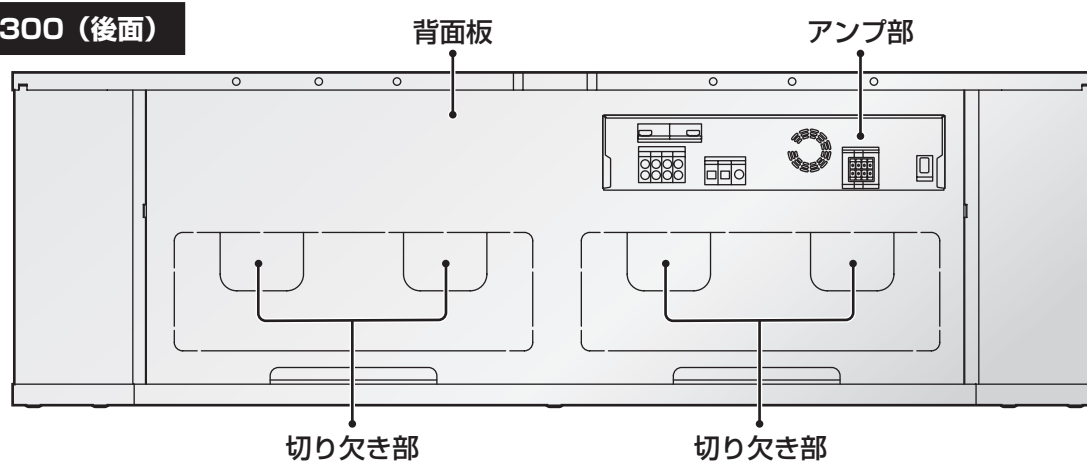
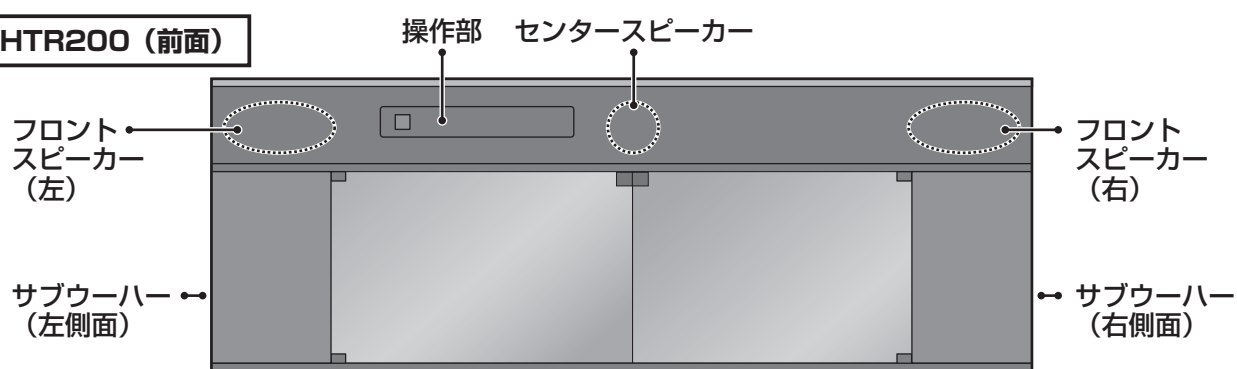
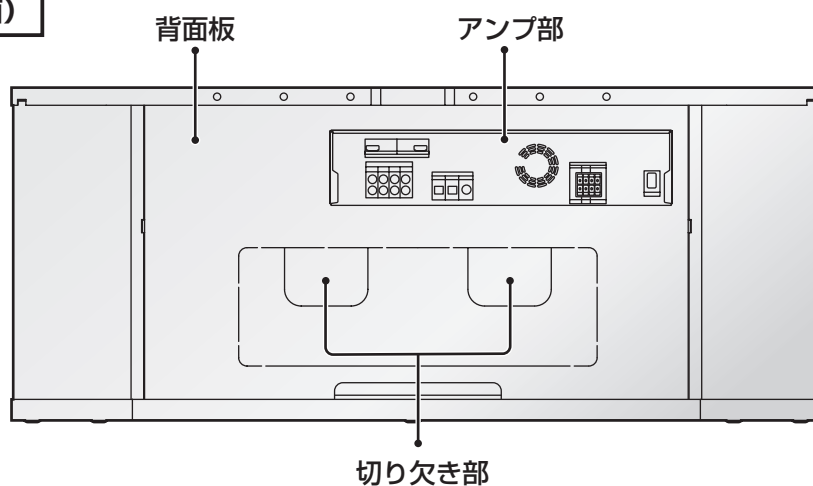
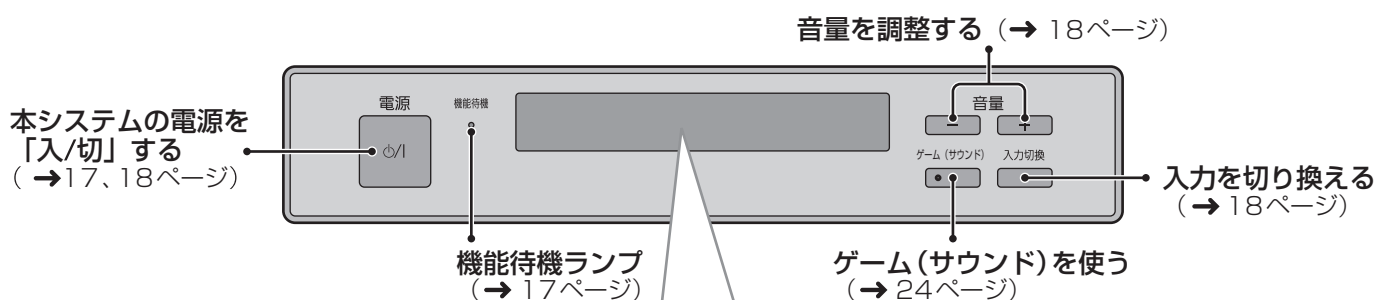
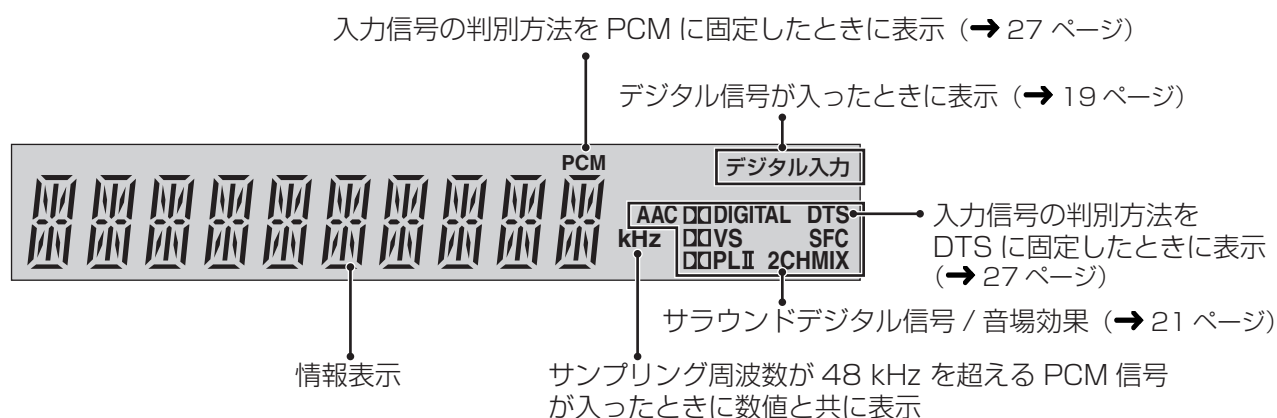
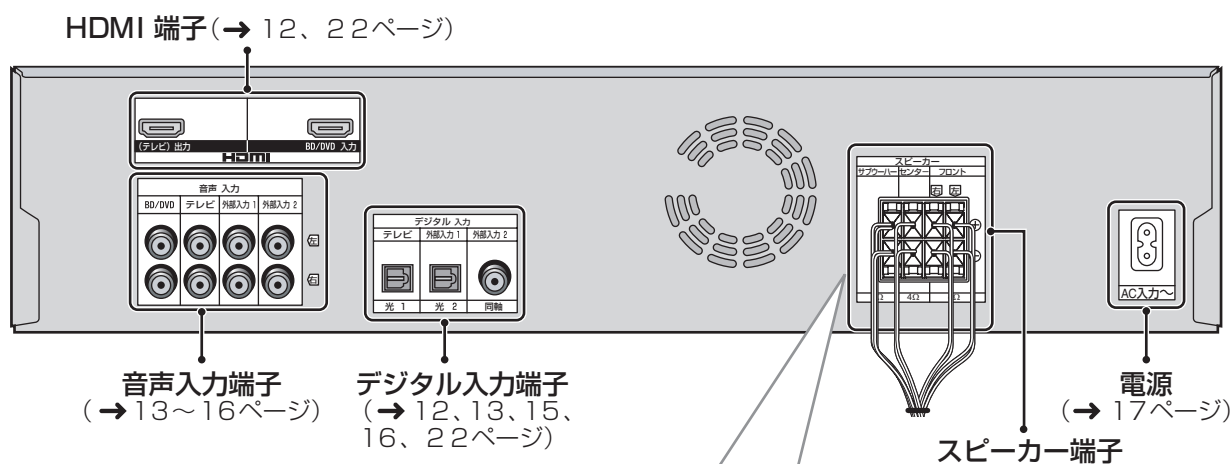
サンプリング周波数が 48 kHz を超える PCM 信号が入ったときに数値と共に表示

アンプ部

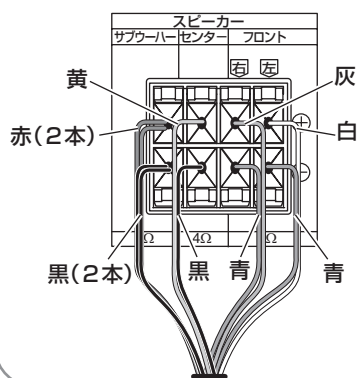
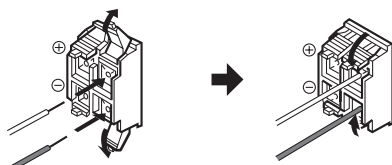
HDMI 端子（➜ 12、22ページ）

音声入力端子
（ ➜13～16ページ）

デジタル入力端子
（➜ 12、13、15、16、22ページ）

電源
（➜ 17ページ）

スピーカー端子

スピーカー端子について

本システムでは、スピーカーはあらかじめ接続されています。特に必要がなければ、触らないようにしてください。
スピーカーコードがはずれてしまった場合などは、下の図を参考に接続してください。

●● お願い ●●

スピーカーコードをショートさせないでください。回路が破損する恐れがあります。

リモコン

本システムの電源を「入 / 切」する（➜17 ～ 19 ページ）

入力を切り換える（➜19 ページ）

サブウーハーレベルを調整する（➜24 ページ）

センターレベルを調整する（➜24 ページ）

ホームシアターをワンタッチ再生する（➜22 ページ）

音量を調整する（➜17 ～ 19 ページ）

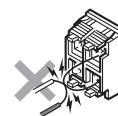
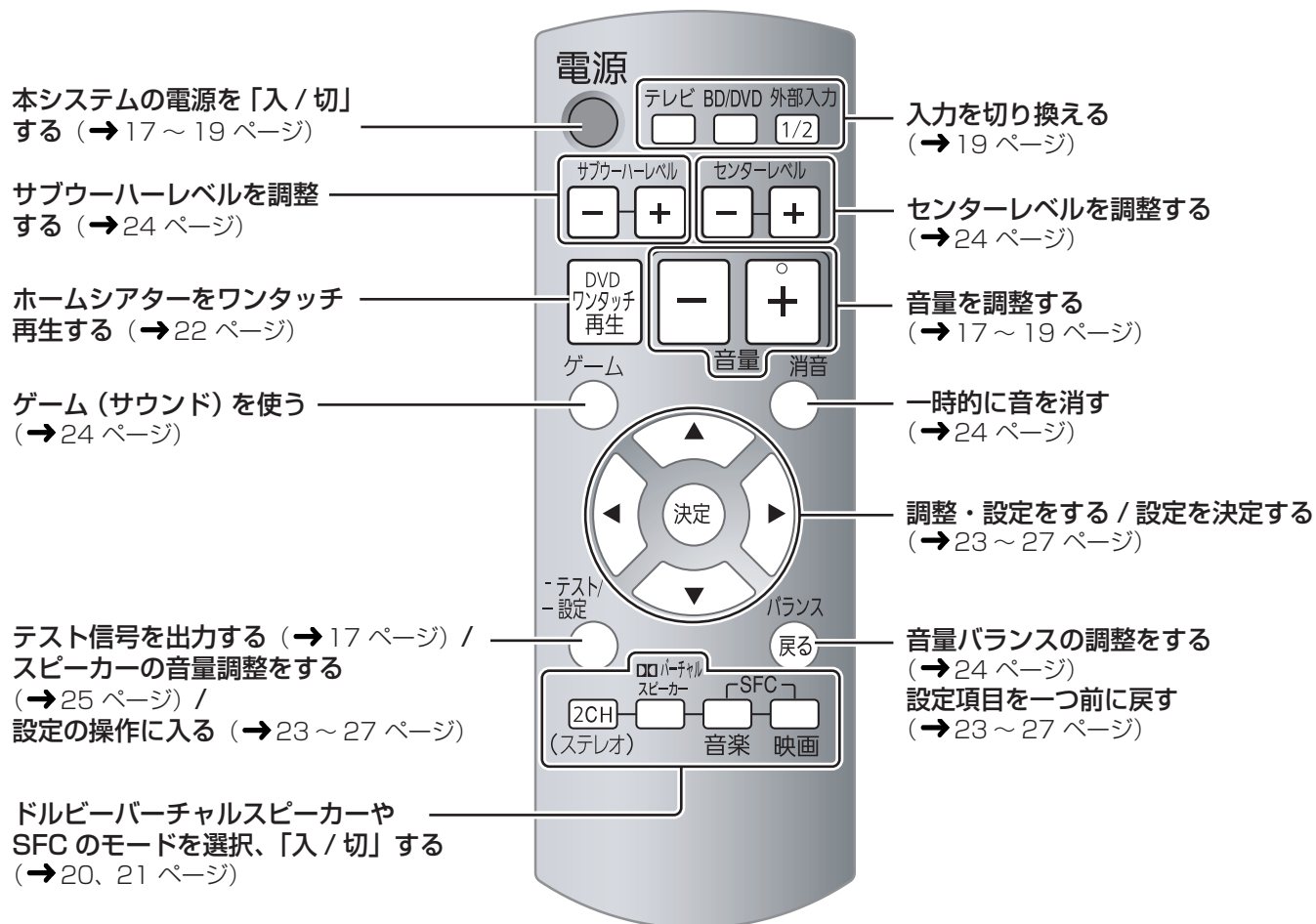
ゲーム（サウンド）を使う（➜24 ページ）

一時的に音を消す（➜24 ページ）

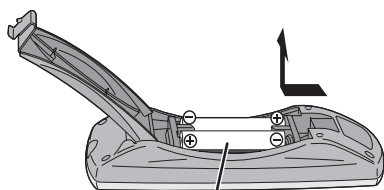
調整・設定をする / 設定を決定する（➜23 ～ 27 ページ）

テスト信号を出力する（➜17 ページ）/ スピーカーの音量調整をする（➜25 ページ）/ 設定の操作に入る（➜23 ～ 27 ページ）

音量バランスの調整をする（➜24 ページ）
設定項目を一つ前に戻す（➜23 ～ 27 ページ）

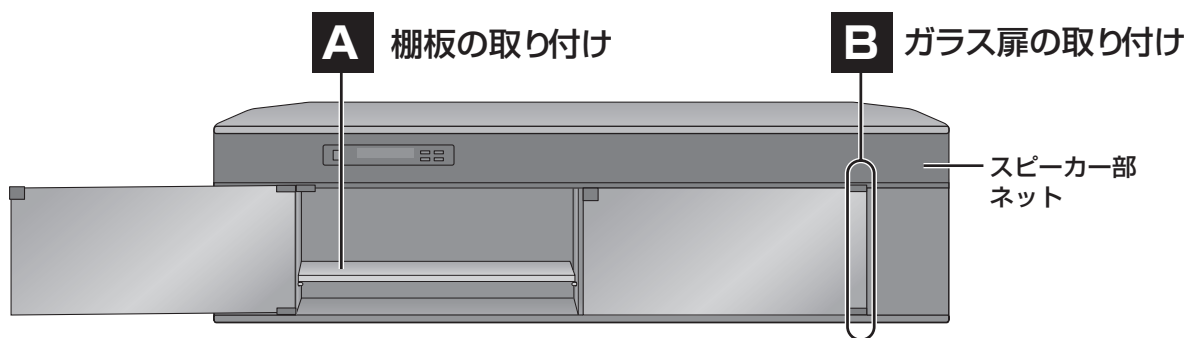
ドルビーバーチャルスピーカーや SFC のモードを選択、「入 / 切」する（➜20、21 ページ）

リモコンの準備

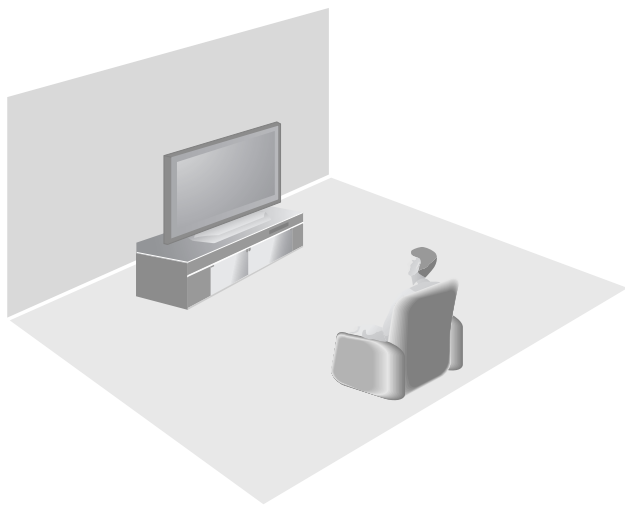
乾電池の入れかた

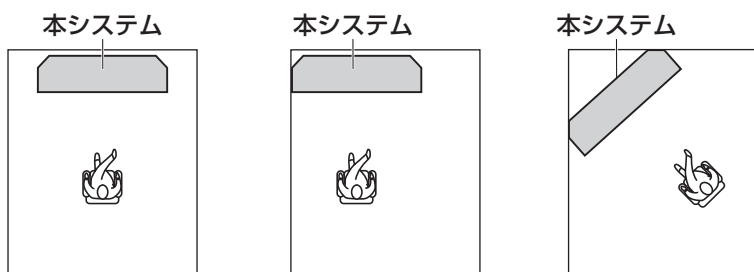
ふたのふちを押しながら開ける

リモコンの使いかた

■使用上のお願い

- 受信部とリモコンの間に障害物を置かない。
- 受信部に直射日光やインバーター蛍光灯の強い光を当てない。
- 受信部と送信部のほこりに注意。

ラックの設置と取り付け

設置について

■ 設置作業は 2 人以上で行い、指を挟んだり、腰を痛めたりしないようにしてください。
■ プラスドライバーを用意してください。
（電動ドライバーは使用しないでください。）
■ 不安定な場所を避けて、設置してください。
■ ガラス扉の取り扱いには、十分にご注意ください。

- 転倒しないよう、必ず水平な場所にぐらつかないように設置してください。それ以外の場所への設置は、転倒防止などの十分な安全対策を行ってください。
- 本システムは、本システムの側面や後面を壁に付けて配置することもできます。ただし、ラックの取り付けや各機器の接続の際には、作業スペースが必要ですので、ご注意ください。
- 後面の放熱孔をふさぐことになるので、カーテンなどの前には置かないようにしてください。
- 本システムを設置する際は、前面のスピーカー部のネットには、力を加えないようにしてください。

配置例

本システム

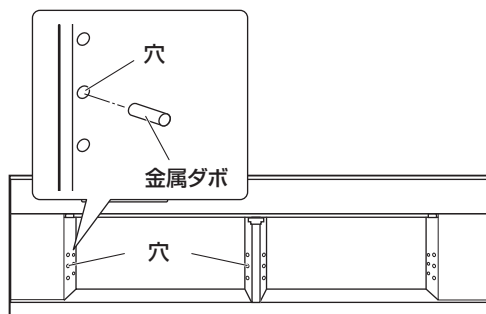
本システム

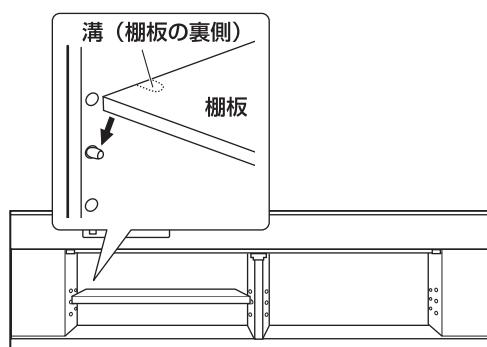
本システム

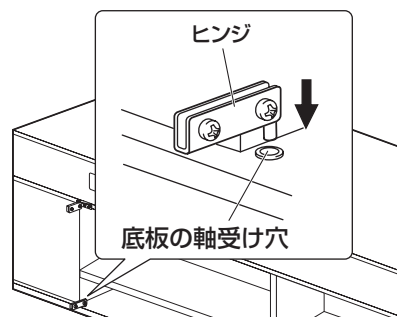
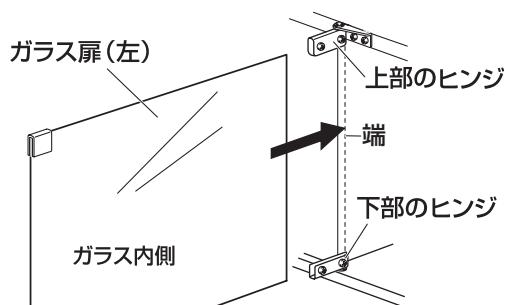
■本システムにはスピーカーが内蔵されています。
- 他のスピーカーを接続しないでください。他のスピーカーを使用すると、正しい特性の音が得られず、また故障の原因になります。
- **サラウンドスピーカーなどを追加して接続することはできません。**

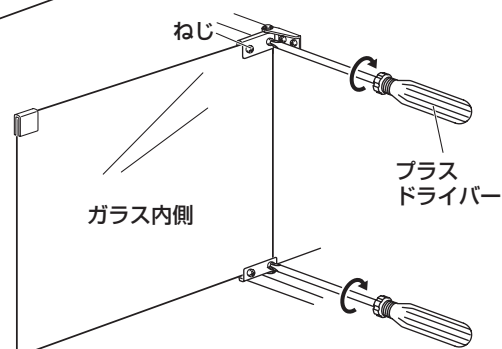
◯◯お知らせ◯◯
- テレビは持ち上げて移動してください。引きずるとラックの天板を傷つけることがあります。
（持ち方については、テレビの取扱説明書をご覧ください。）

A 棚板の取り付け

1 手前と奥の同じ高さの穴に
金属ダボ（付属）を奥まで完全に差し込む。
反対側も同じようにする。

2 棚板（付属）の溝に合うように、
金属ダボの上に棚板を載せる。

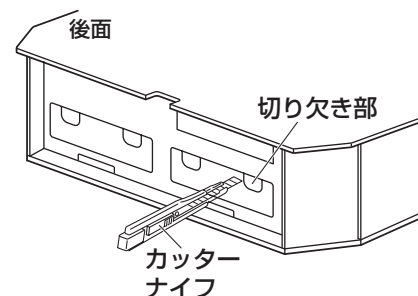
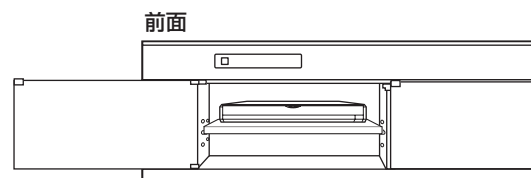
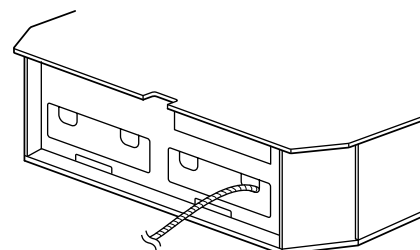
- 棚板の高さは、3 段階に調整できます。
- 金属ダボを差し込む穴を変えて、棚板の高さを調整してください。

B ガラス扉の取り付け

1 ヒンジ（付属）をねじ部が内側になるように、
底板の軸受け穴に挿入する。

2 ガラス扉（付属）を上部のヒンジと下部のヒンジの端まで挿入し、ねじを仮止めする。

3 左右のガラス扉の高さやすき間を調整して、
上下のヒンジのねじをプラスドライバーで締める。

- もう一方のガラス扉も、同じように取り付けてください。
- ねじは、強く締めすぎないようにしてください。
- プラスドライバーは、ねじの大きさに合ったサイズをご使用ください。

ラックの設置と取り付け（つづき）

BD レコーダー /DVD レコーダーなど収納する機器の設置（各機器の取扱説明書もご覧ください。）

1 機器を設置した後、配線のため背面板の切り欠き部を、カッターナイフなどで切り込みを入れ、取り外す。

- カッターナイフの刃先は、出しすぎないように 5 ～ 10 mm ぐらいまで出して、十分にご注意してご使用ください。
- 本システムと各機器の接続については、12 ～ 16 ページをご覧ください。
- 発熱する機器を設置する場合は、背面板の切り欠き部を取り外して、通気を確保してください。

2 収納した機器のコードを、切り欠き部から束ねて引き出す。

◯◯お知らせ◯◯
- 棚板には 12 kg、底板には 20 kg を超える機器を設置しないでください。
- 録画機器を上段に載せると、映像に障害が出る場合があります。その場合は、棚板の下段に設置してください。
- 機器を収納する際は、下記の表を参考にしてください。

SC-HTR300　　単位 (mm)

収納部の高さ	上段	101.4 ～ 131.4 ～ 161.4
	下段	102.8 ～ 72.8 ～ 42.8
収納部の幅	436（左右とも）	
収納部の奥行き	350	

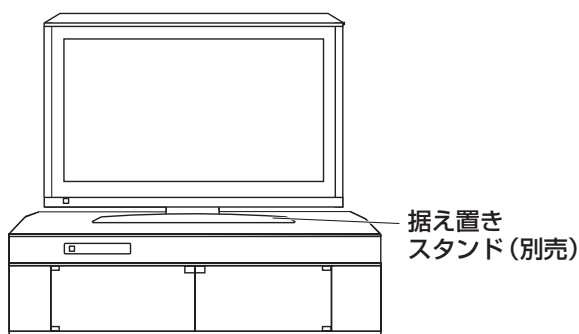
SC-HTR200　　単位 (mm)

収納部の高さ	上段	82.2 ～ 112.2 ～ 142.2 （マグネットキャッチの高さは除く）
	下段	102.8 ～ 72.8 ～ 42.8
収納部の幅	700	
収納部の奥行き	350	

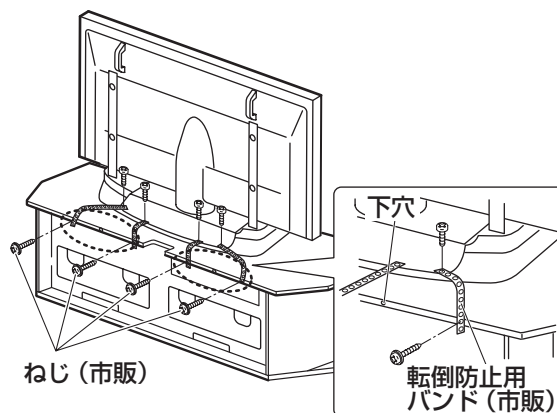
テレビの設置（テレビの取扱説明書もご覧ください。）

推奨　SC-HTR300: 50 インチ以下
　　　SC-HTR200: 42 インチ以下

準備 テレビに据え置きスタンド（別売）を設置する。

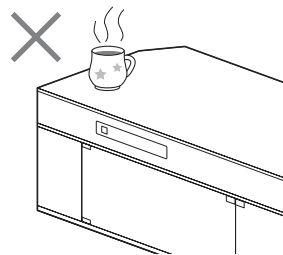
テレビ（据え置きスタンド付き）をラックの中央に設置する。

転倒防止について

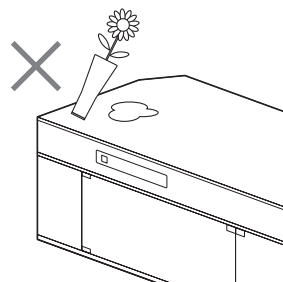
テレビが転倒しないように、テレビとラックを固定する。

- 市販の転倒防止用バンドなどで、テレビとラックを固定してください。固定する場合は、天板後部の下穴に取り付けてください。下穴以外に取り付けると天板にキレツが発生し、破損する場合があります。
- ねじは ø 3 mm、長さが 30 mm ～ 35 mm のサイズをご使用ください。

ラックについて

■ ラックの上に物などを置く場合は、以下のような物にご注意ください。

● 熱いもの

跡が付いて、取れなくなる場合があります。

● 水の入った花瓶など

倒れた際、水が本システムにかかり、故障の原因になります。

接続する

HDMI 端子のある機器（テレビ、レコーダーなど）を接続する

使用するケーブル（別売品の品番は、「別売品のご紹介」（➜ 4 ページ）を参照してください。）

HDMI ケーブルについて

- 当社製 HDMI ケーブルを推奨します。
- 1125p（1080p）の映像を楽しむ場合は、映像劣化などの防止のため 5.0 m 以下の当社製ケーブルを推奨します。

テレビ

HDMI
入力

デジタル
音声出力(光)

テレビの音声をサラウンドで楽しむ場合に接続してください。
アナログ接続する場合は「アナログ音声を楽しむ」の「テレビをアナログ接続する」（➜ 14 ページ）を参照してください。

光デジタルケーブルの接続方法

形状を合わせて差し込む

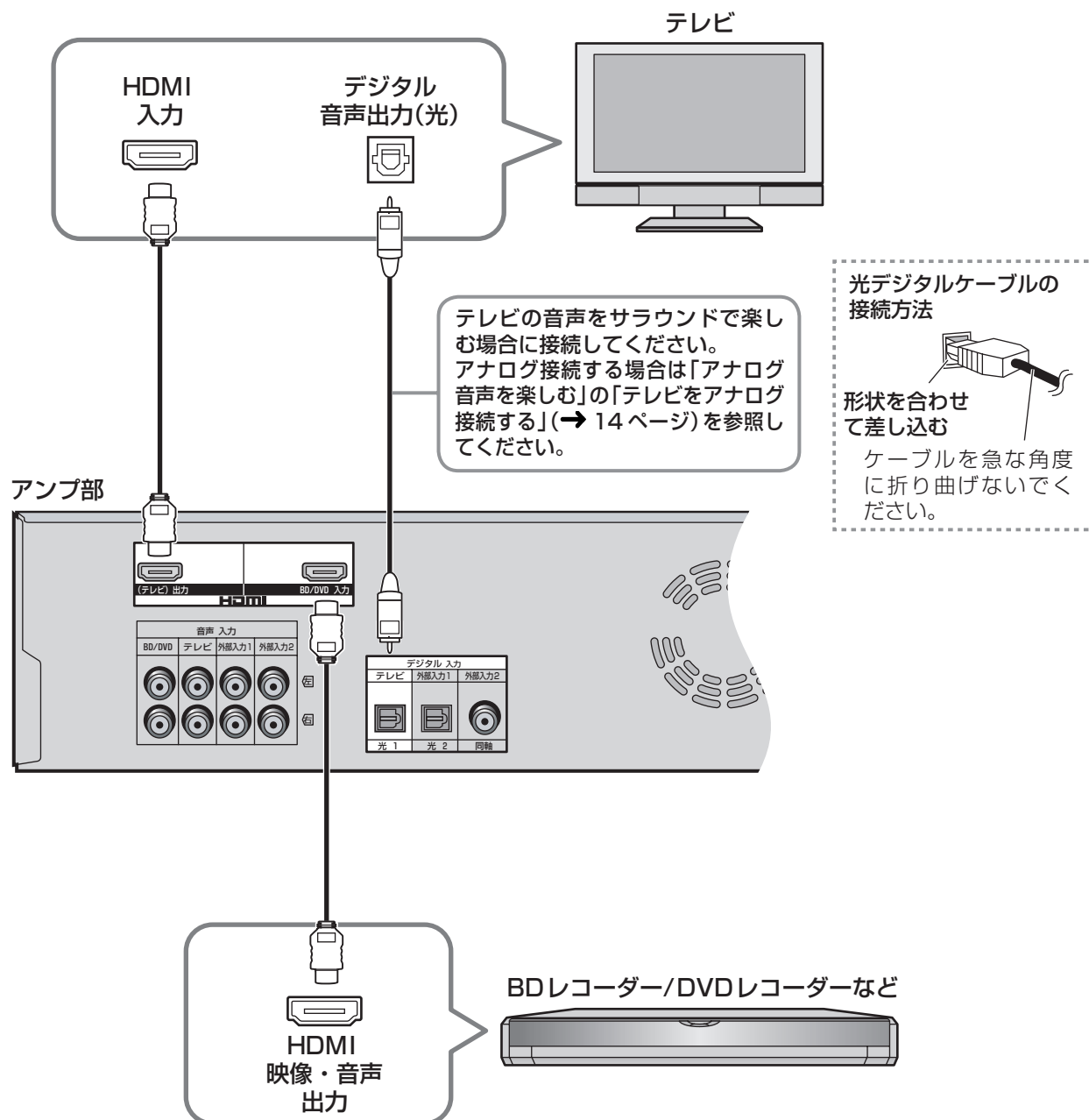
ケーブルを急な角度に折り曲げないでください。

アンプ部

（テレビ）出力　BD/DVD 入力

音声 入力　BD/DVD　テレビ　外部入力1　外部入力2　左　右

デジタル 入力　テレビ　外部入力1　外部入力2　光 1　光 2　同軸

BDレコーダー/DVDレコーダーなど

HDMI
映像・音声
出力

スタンバイスルー機能を使う

このページで紹介した接続であれば、本システムの電源を切っても、レコーダーからの映像 / 音声信号が本システムを通過して、テレビへ伝送される機能です。
深夜の視聴など、テレビのスピーカーだけで楽しみたいときに便利です。

お知らせ

電源を切る前に入力を“***BD/DVD***”（➜ 18、19 ページ）以外に設定していても、本システムの電源を切ると、本システムの BD/DVD HDMI 入力に接続したレコーダーの映像 / 音声信号がテレビから出力されます。（再度、本システムの電源を入れると、設定していた入力に戻ります。）

●接続するときは、各機器の電源を切ってください。
●接続する各機器の説明書もご覧ください。

HDMI 端子がない機器（DVD プレーヤー、ビデオデッキなど）を接続する

使用するケーブル（別売品の品番は、「別売品のご紹介」（➜ 4 ページ）を参照してください。）

※ 映像コードに関しては、接続する機器の説明書をご覧ください。

テレビ

デジタル音声出力(光)

映像機器の映像出力とテレビの映像入力を直接接続してください。

映像入力

この接続をすると、本システムの電源を切っても、接続した各機器の音声信号がテレビから出力されます。

音声入力

テレビの音声をサラウンドで楽しむ場合に接続してください。
アナログ接続する場合は「アナログ音声を楽しむ」の「テレビをアナログ接続する」(➜ 14 ページ)を参照してください。

光デジタルケーブルの接続方法

形状を合わせて差し込む

ケーブルを急な角度に折り曲げないでください。

アンプ部

(テレビ) 出力　BD/DVD 入力　HDMI

音声 入力　BD/DVD　テレビ　外部入力 1　外部入力 2　左　右

デジタル 入力　テレビ　外部入力 1　外部入力 2　光 1　光 2　同軸

映像コード

音声コード

Ⓑ　Ⓐ

DVDプレーヤー、ビデオデッキなど

右　左
音声出力

デジタル音声出力(光)

映像出力

音声出力

お持ちの機器やお好みに合わせて、Ⓐ または Ⓑ のいずれかに接続してください。

準備

接続する

接続する（つづき）

●接続するときは、各機器の電源を切ってください。
●接続する各機器の説明書もご覧ください。

アナログ音声を楽しむ

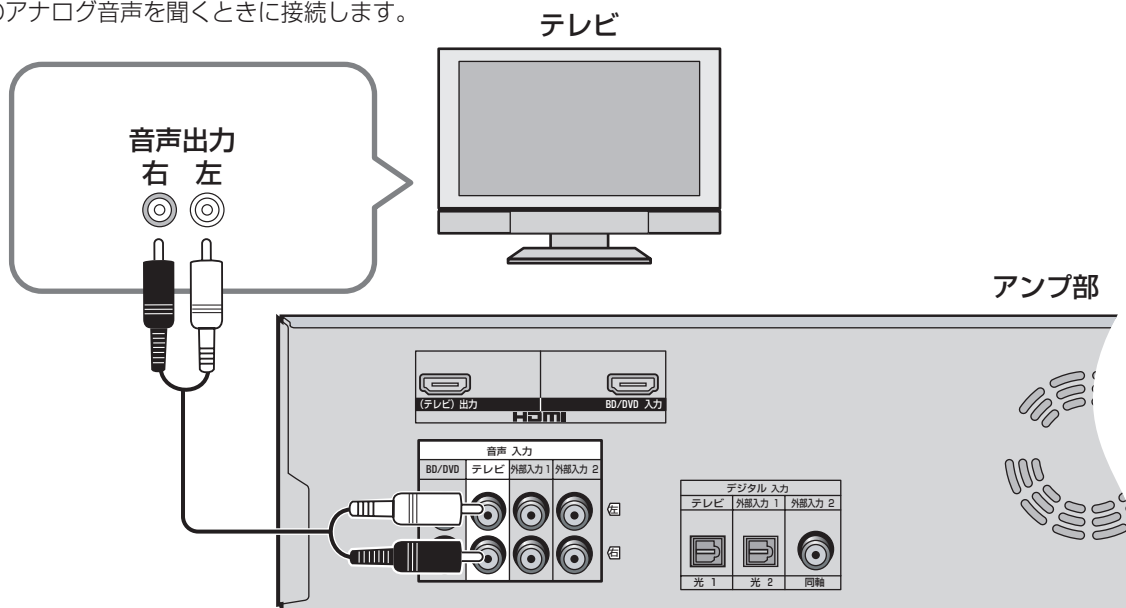
使用するケーブル（別売品の品番は、「別売品のご紹介」（➜ 4 ページ）を参照してください。）

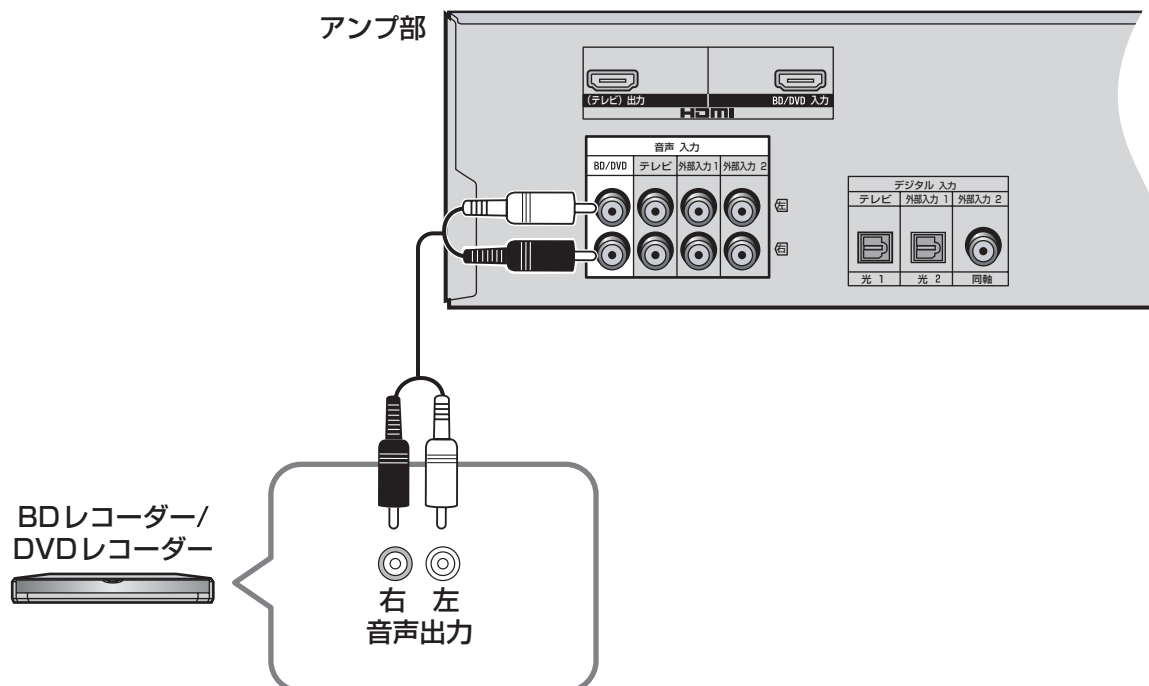
ステレオピンコード（別売）

お持ちの機器やお好みに合わせて、接続してください。

映像コードは、映像機器の映像出力とテレビの映像入力を直接接続してください。
※映像コードに関しては、接続する機器の説明書をご覧ください。

テレビをアナログ接続する

テレビのアナログ音声を聞くときに接続します。

BD レコーダー、DVD レコーダーをアナログ接続する

本システムに HDMI ケーブル、光デジタルケーブルを接続しても、本システムが対応していないデジタル信号の場合は音が再生されません。この場合は、下図のようにアナログ接続します。

その他の接続

●接続するときは、各機器の電源を切ってください。
●接続する各機器の説明書もご覧ください。

使用するケーブル（別売品の品番は、「別売品のご紹介」（➜ 4 ページ）を参照してください。）

※映像コードに関しては、接続する機器の説明書をご覧ください。

CATV セットトップボックス、BS デジタルチューナー、CS チューナーなどを接続する

テレビ用の入力端子を使って接続します。
お持ちの機器やお好みに合わせて、Ⓐ または Ⓑ のいずれかに接続してください。

光デジタルケーブルの接続方法

形状を合わせて差し込む

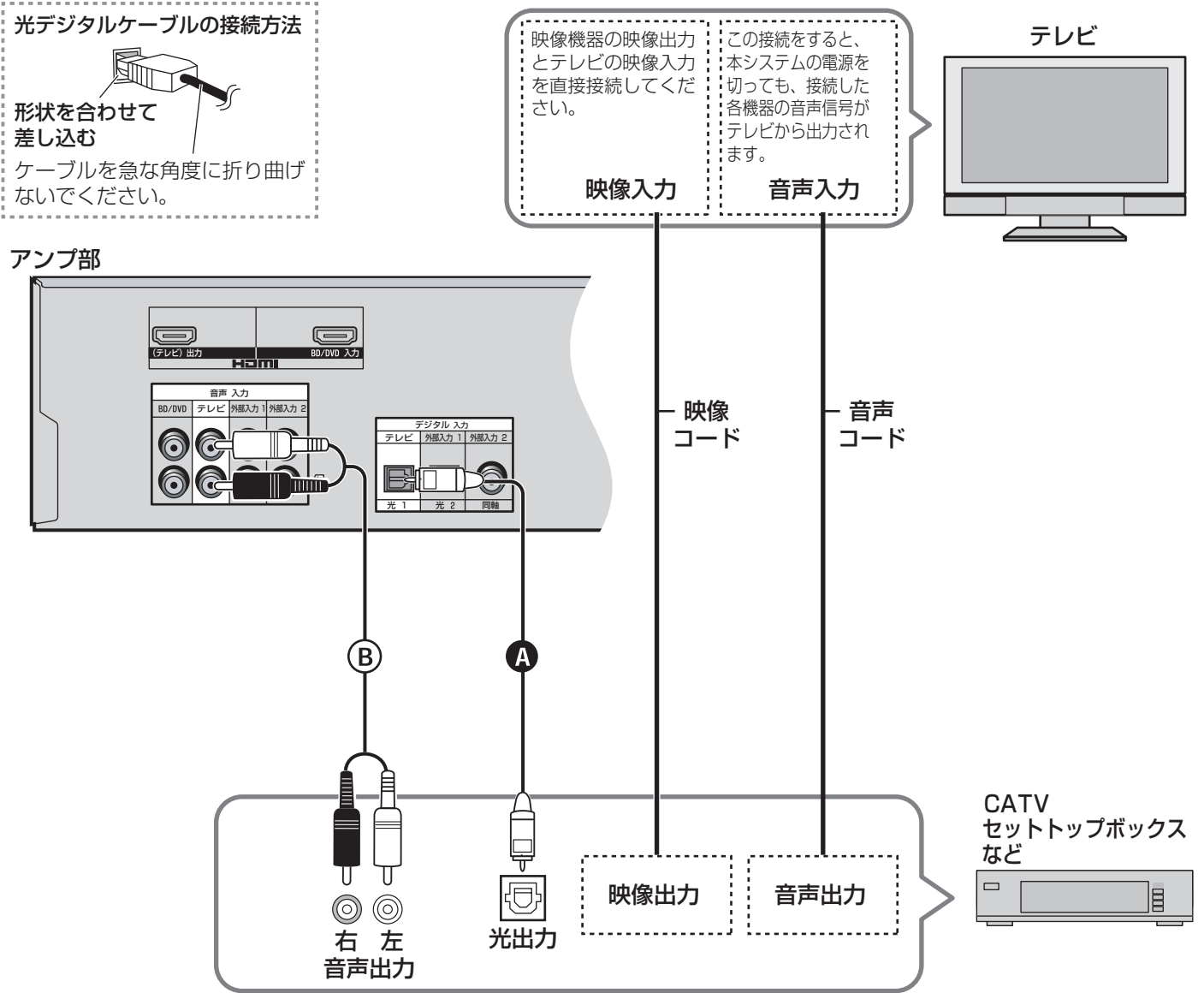
ケーブルを急な角度に折り曲げないでください。

映像機器の映像出力とテレビの映像入力を直接接続してください。

この接続をすると、本システムの電源を切っても、接続した各機器の音声信号がテレビから出力されます。

テレビ
映像入力
音声入力
アンプ部
(テレビ) 出力
BD/DVD 入力
HDMI
音声 入力
BD/DVD テレビ 外部入力 1 外部入力 2
デジタル 入力
テレビ 外部入力 1 外部入力 2
光 1 光 2 同軸
映像コード
音声コード
Ⓑ
Ⓐ
右 左
音声出力
光出力
映像出力
音声出力
CATV セットトップボックスなど

準備

接続する（つづき）／その他の接続

その他の接続（つづき）

●接続するときは、各機器の電源を切ってください。
●接続する各機器の説明書もご覧ください。

使用するケーブル（別売品の品番は、「別売品のご紹介」（➜ 4 ページ）を参照してください。）

光デジタルケーブル（別売）	同軸デジタルケーブル（市販）	ステレオピンコード（別売）
角型		

※映像コードに関しては、接続する機器の説明書をご覧ください。

ビデオデッキ一体型 DVD レコーダーを接続する

DVD/VHS 専用端子がある機器の場合の接続です。

テレビ

映像機器の映像出力とテレビの映像入力を直接接続してください。

映像入力

この接続をすると、本システムの電源を切っても、接続した各機器の音声信号がテレビから出力されます。

音声入力

アンプ部

（テレビ）出力　BD/DVD 入力　HDMI

音声 入力　BD/DVD　テレビ　外部入力 1　外部入力 2　左　右

デジタル 入力　テレビ　外部入力 1　外部入力 2　光 1　光 2　同軸

映像コード

音声コード

光デジタルケーブルの接続方法

形状を合わせて差し込む

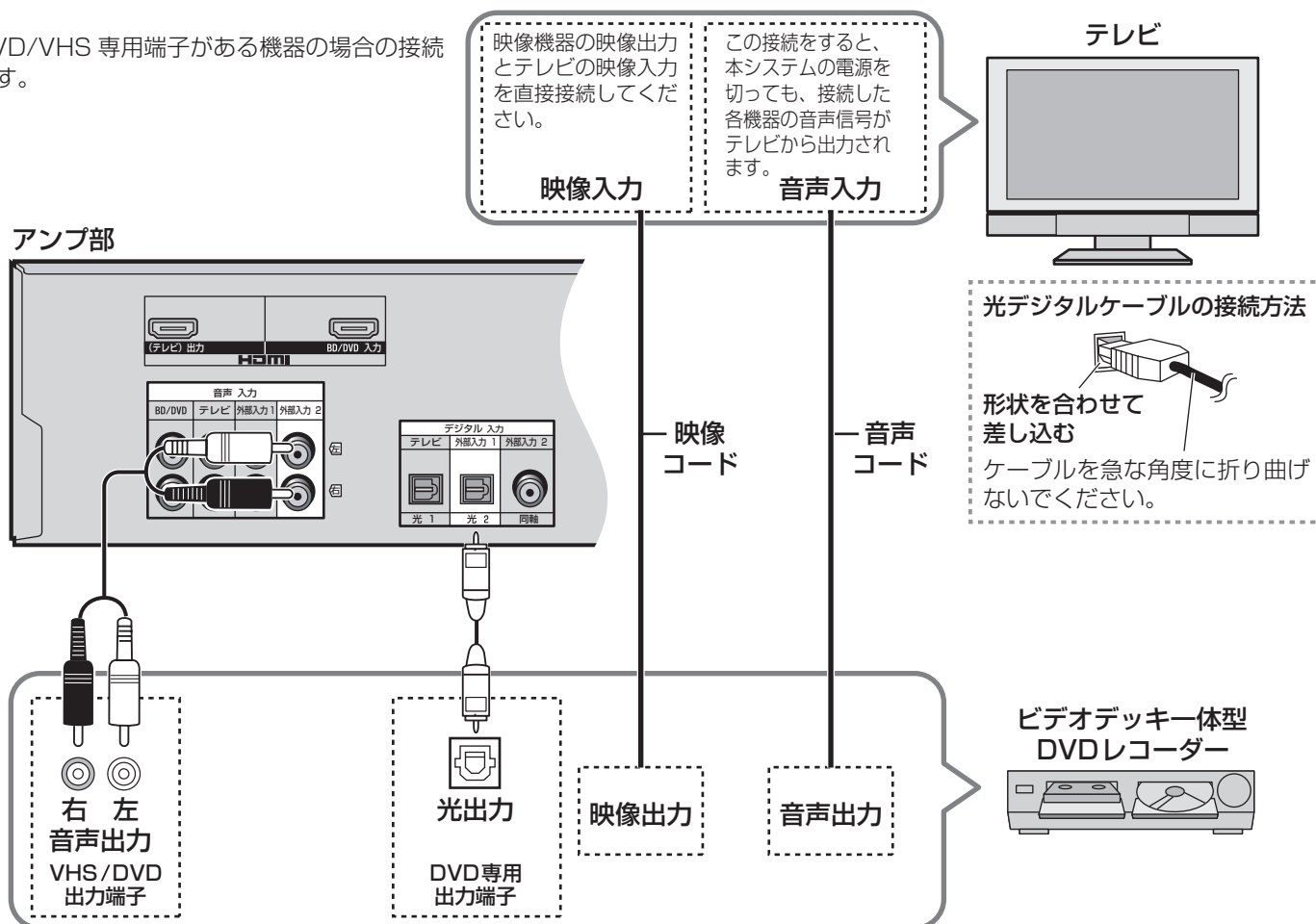
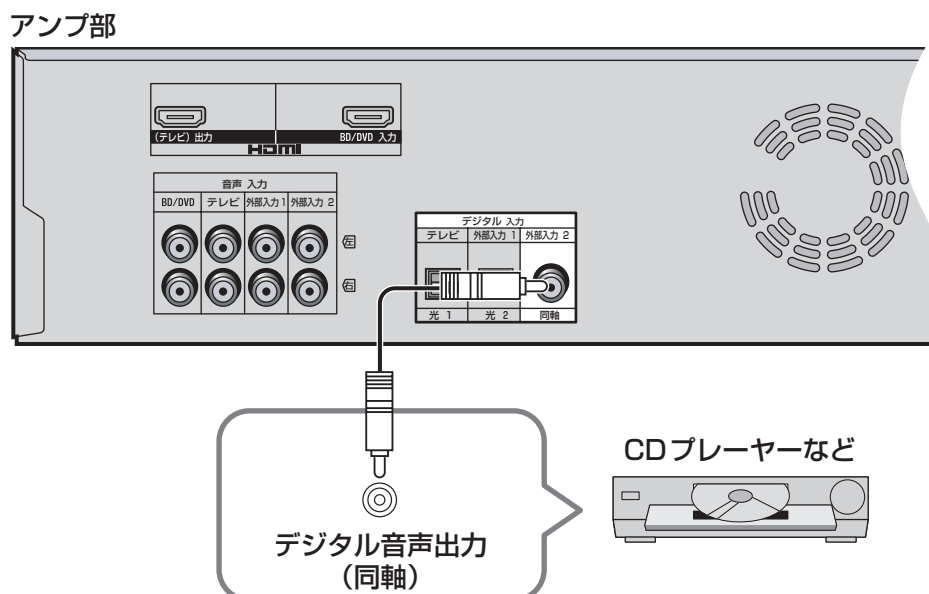
ケーブルを急な角度に折り曲げないでください。

右　左
音声出力
VHS/DVD 出力端子

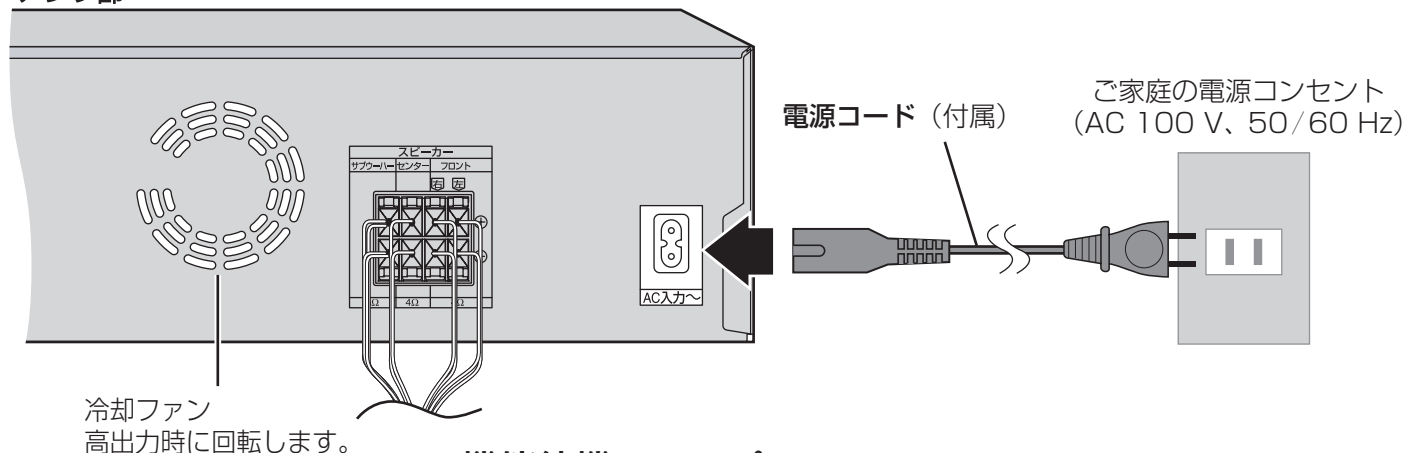
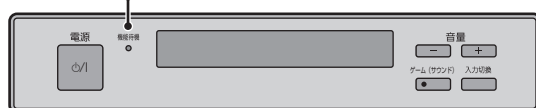
光出力
DVD専用 出力端子

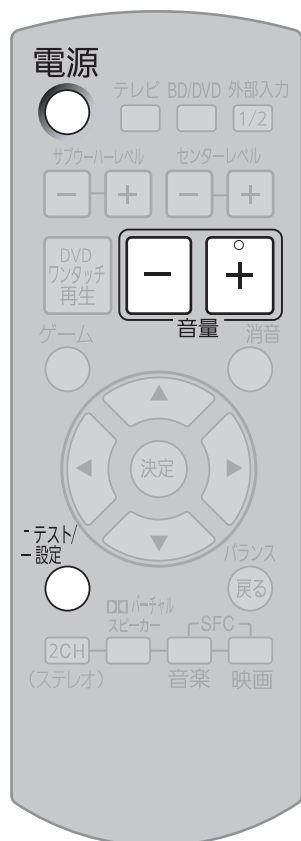
映像出力

音声出力

ビデオデッキ一体型 DVDレコーダー

デジタル端子（同軸）のあるオーディオ機器（CD プレーヤーなど）を接続する

電源コードの接続

電源コードは必ず最後に接続してください。

電源プラグをコンセントに接続した状態で 約 0.6 W（省待機電力モード時（➜ 25 ページ）は約 0.2 W）の電力を消費しています。長期間使用しないときは節電のため抜いておくことをおすすめします。

[機能待機] ランプについて

電源コードを接続すると、電源「切」のときに [機能待機] ランプが点灯（赤色）します。
電源を「入」にすると消灯します。

スピーカーの音を確認する

テスト信号で、音声の出力を確認できます。

1. 電源 を押して、本システムの電源を入れる

2. テスト/設定 を押して、音声出力を確認する

TEST　L

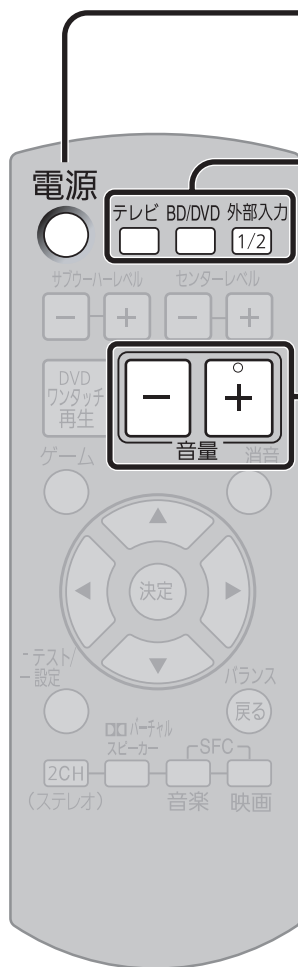
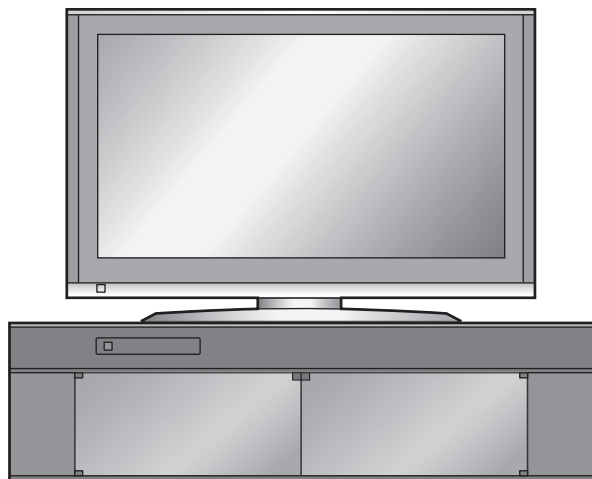
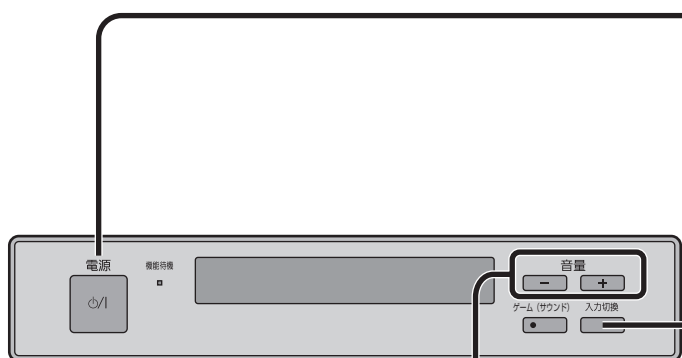
スピーカー表示

- スピーカーの音を [－][＋] 音量 で、通常聞く音量にしてください。
- 約 2 秒間隔で下記の順にテスト信号が出力されます。
  L（フロント左）→ ***C***（センター）→ ***R***（フロント右）→ ***SUBW***（サブウーハー）

☞ **センタースピーカーやサブウーハーの音量がフロントスピーカーの音量とバランスが合わないと感じた場合**
スピーカーの音量調整をしてください。（➜ 25 ページ）

3. テスト/設定 を押して、テスト信号を止める

映画や音楽を楽しむ

準備 テレビの電源を入れ、テレビの入力を、本システムを接続した入力（[HDMI] など）に切り換える。

本体で操作する場合

1 本システムの電源を入れる

電源 ⏻/I 押す

2 再生したい機器を選ぶ（入力を切り換える）

入力切換 押す

TV	：テレビ
BD/DVD（初期設定）	：BD レコーダー、DVD レコーダー
AUX 1	：外部入力 1 端子に接続した機器
AUX 2	：外部入力 2 端子に接続した機器

3 機器を再生する

4 音量を調整する

音量 − ＋ 押す

本システムで再生できるデジタル信号

● AAC　● ドルビーデジタル　● DTS
● CD や DVD オーディオなどの PCM 信号（96 kHz までのサンプリング周波数の PCM 信号も含む。）
各信号について詳しくは「用語解説」(➜ 30 ページ) をご覧ください。

1

電源

本システムの電源を入れる

押す

2

テレビ
または
BD/DVD
または
外部入力 1/2

再生したい機器を選ぶ（入力を切り換える）

押す

☞ **ビデオデッキー体型 DVD レコーダーの場合（DVD/VHS 専用出力端子がある機器の場合）**
- DVD を楽しむとき：“***AUX 1***”に合わせる
- ビデオを楽しむとき：“***AUX 2***”に合わせる

BD / DVD（初期設定）

TV	：テレビ
BD/DVD	：BD レコーダー、DVD レコーダー
AUX 1	：外部入力 1 端子に接続した機器
AUX 2	：外部入力 2 端子に接続した機器

■ **“*AUX 1*”と“*AUX 2*”は [外部入力 1/2] を押すごとに切り換わります。**

3 **機器を再生する**

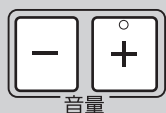
●デジタル信号が入ってきたときは、“**デジタル入力**” が点灯します。また、再生する信号に応じて、表示部にサラウンドデジタル信号表示（➜ 21 ページ）が点灯します。

BD / DVD
デジタル信号が入ってきたときに表示
サラウンドデジタル信号

■ **お好みでドルビーバーチャルスピーカーや SFC のモードの変更や解除ができます（➜ 20、21 ページ）**

4

音量を調整する

押す

VOLUME 32

0（最小）~ ***80***（最大）

■ **再生を楽しんだ後は、音量を下げてから [電源] を押して電源を切ってください。**

チャンネル数表示について

● 5.1 チャンネルなどのサラウンドデジタル信号が入ってきたときには、信号のチャンネル数がしばらくの間表示されます。（入力ソースが変わっても、チャンネル数が同じ場合には、表示されません。）

例）5.1 チャンネルサラウンドデジタル信号

例）センターやサラウンド信号がない場合

信号がない場合は、“*0*” と表示されます。

楽しむ　映画や音楽を楽しむ

映画や音楽を楽しむ（つづき）

音場効果

ドルビーバーチャルスピーカーおよび SFC の効果は入力ソースによって異なります。
実際の音をお聞きのうえ、お好みのモードを選んでください。

ドルビーバーチャルスピーカーを使う

５．１チャンネルで聞いているようなサラウンド効果が楽しめます。
（ビデオや CD などのステレオソースには同時にドルビープロロジックⅡが働きます。）

[バーチャルスピーカー] 押して選ぶ

REFERENCE

REFERENCE（標準モード）
標準的な効果が得られるモードです。

WIDE（ワイドモード）
左右の音場を更に広くするモードです。

■ 解除する ➡ [2CH]（ステレオ）押す

入力ソースが CD などの 2 チャンネルの場合
ステレオモードになり、サラウンド効果がない状態になります。

STEREO

入力ソースが ドルビーデジタルや DTS などのサラウンドデジタル信号の場合
2CH MIX モードになり、信号を 2 チャンネルに集約し、左右のフロントスピーカーから出力します。

2CH MIX

お知らせ
PCM のサンプリング周波数が 48 kHz を超えるソースが入力されると、自動的にドルビーバーチャルスピーカーは解除されます。
効果を使用するには再び [DD バーチャルスピーカー] を押して選んでください。

SFC (Sound Field Control) を使う

ドルビーデジタル、DTS、AAC、ステレオソース(ビデオや CD など)に好みの臨場感や広がり感を与えたサラウンド効果が楽しめます。

SFC 音楽 映画 押して選ぶ

LIVE ◻◻VS SFC

音楽	映画
***LIVE*（ライブ）** 大きなコンサートホールにいるような音の反響と広がり。	***DRAMA*（ドラマ）** セリフがメインになるようなドラマに適した効果。
***POP/ROCK*（ポップ / ロック）** ポピュラーやロック音楽に適した効果。	***ACTION*（アクション）** 迫力のあるアクション映画に適した効果。
***VOCAL*（ボーカル）** ボーカルの声を際立たせる効果。	***SPORTS*（スポーツ）** スポーツ観戦しているような臨場感。
***JAZZ*（ジャズ）** ジャズクラブのような狭い部屋の音の反響。	***MUSICAL*（ミュージカル）** ミュージカル劇場にいるような臨場感。
***DANCE*（ダンス）** ダンスホールのような広い空間で響いている音の広がり感。	***GAME*（ゲーム）** 迫力のあるサウンドでゲームなどを楽しむとき。
	***MONO*（モノラル）** 昔のモノラル音声の映画などに適した効果。

■ SFC の効果を解除する ➡ ◻◻バーチャルスピーカー 押す

お知らせ

- PCM のサンプリング周波数が 48 kHz を超えるソースが入力されると、自動的に SFC は解除されます。効果を使用するには再び [SFC 音楽 、映画] を押して選んでください。
- “***GAME***” モードは、本体の [ゲーム（サウンド）] やリモコンの [ゲーム] を押すことでも選べます。（➜ 24 ページ）

サラウンドデジタル信号 / 音場効果の表示について

デジタル入力
AAC ◻◻DIGITAL DTS
◻◻VS SFC
◻◻PLⅡ 2CHMIX

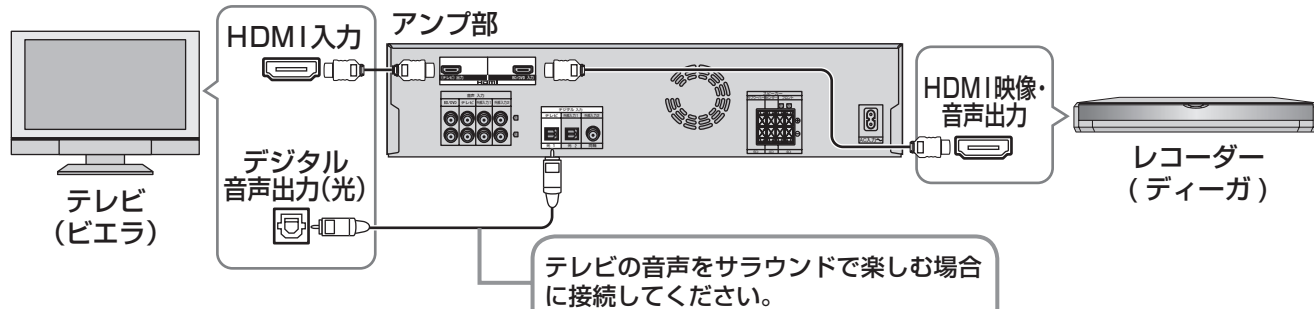
入ってきたデジタル信号の種類や使用中の音場効果を表示します。

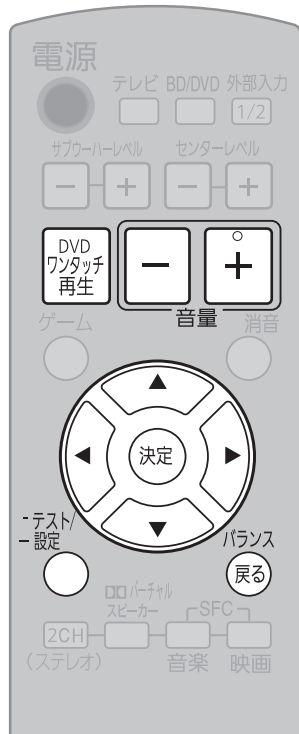
AAC ：AAC ソース (BS デジタル放送など) を再生しているとき
◻◻DIGITAL ：ドルビーデジタルソースを再生しているとき
DTS ：DTS ソースを再生しているとき
◻◻VS ：ドルビーバーチャルスピーカーが働いているとき
SFC ：SFC が働いているとき
◻◻PLⅡ ：2 チャンネルのステレオソースにドルビーバーチャルスピーカーを使用したとき（ドルビープロロジックⅡデコーダーが働いているとき）
2CHMIX ：2CH MIX モードが働いているとき

ビエラリンクを使う

ビエラリンク（HDAVI Control™）とは
●本システムと HDMI ケーブル（別売）を使って接続したビエラリンク対応機器を自動的に連動させて、リモコン 1 つで簡単に操作できる機能です。各機器の詳しい操作については、それぞれの取扱説明書をご覧ください。
※すべての操作ができるものではありません。
●本システムはビエラリンク Ver.2 に対応しています。
ビエラリンク Ver.2 とは、従来の当社製ビエラリンク機器にも対応した最新の当社基準です。（2007 年 2 月現在）
●ビエラリンクは、HDMI CEC（Consumer Electronics Control）と呼ばれる業界標準の HDMI によるコントロール機能をベースに、当社独自機能を追加したものです。他社製 HDMI CEC 対応機器との動作保証はしておりません。

接続

本システムとビエラリンクに対応した当社製テレビ（ビエラ）とレコーダー（ディーガ）を HDMI ケーブルで接続します。
● 当社製 HDMI ケーブルを推奨します。HDMI 規格に準拠していないケーブルでは動作しません。
品番 : RP-CDHG10 (1.0 m)、RP-CDHG15 (1.5 m)、RP-CDHG20 (2.0 m)、RP-CDHG30 (3.0 m) など

設定

① 接続した機器側（テレビなど）で、ビエラリンクが働くように設定する
② すべての機器の電源を入れる
③ 一度テレビ（ビエラ）の電源を「切」にしたあと、再びテレビ（ビエラ）の電源を「入」にする
④ テレビ（ビエラ）の入力を、本システムを接続した入力（[HDMI] など）に切り換える
⑤ 本システムの入力を "***BD/DVD***" に切り換えて、レコーダー（ディーガ）の画像が正しく映るかを確認する
（接続や設定を変更した場合にも、この操作をしてください。）

ホームシアターをワンタッチ操作で楽しむ

本システムのリモコンをレコーダー（ディーガ）に向けて [DVD ワンタッチ再生] を押す

ボタンを押すだけで、以下の動作が自動で始まります。
1. レコーダー（ディーガ）の電源が「入」になり、選択されているドライブ（HDD/DVD など）から再生が始まります。
2. テレビ（ビエラ）の電源が「入」になり、テレビの入力が切り換わります。
3. 本システムの電源が「入」になり、本システムの入力が "***BD/DVD***" に切り換わった後、再生が始まります。

☞ **音量を調整する場合** を押す

再生中は、テレビ（ビエラ）のリモコンでも音量調整ができます。
（音量を調整すると、テレビ画面に本システムの音量を調整中であることが表示されます。）

● DVD や録画したテレビ番組の始まりが途切れるような場合には、レコーダー（ディーガ）のリモコンで [⏮ スキップ] を押して、始めから再生してください。

HDAVI Control ™ は商標です。

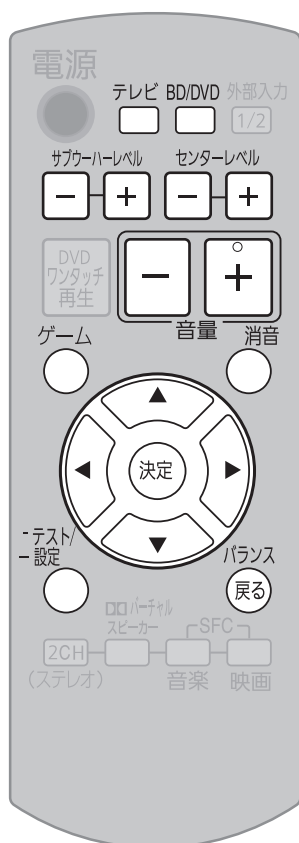
お知らせ
上記の接続で本システムの電源を「入」にすると、レコーダー（ディーガ）の音声は自動的にテレビ（ビエラ）のスピーカーから出なくなり、本システムのスピーカーから出力されます。また、本システムの電源を切ると、レコーダー（ディーガ）からの音声はテレビ（ビエラ）から再生されます。（スタンバイスルー機能 ➜ 12 ページ）

ビエラリンクの動作

自動的に本システムの電源を切る	● テレビ（ビエラ）の電源を切ると、自動的に本システムの電源も切れます。 ビエラリンクに対応したレコーダー（ディーガ）と HDMI ケーブルで接続している場合は、レコーダー（ディーガ）の電源も切れます。
本システムの電源が「切」のとき、本システムのスピーカーからレコーダー（ディーガ）の音声を出力する	● 本システムの電源が「切」のとき、テレビ（ビエラ）で音声を AV アンプから出力する設定にすると、本システムの電源が「入」になり、本システムのスピーカーから音声が出力されます。
自動的に入力を“*BD/DVD*”に切り換える	● レコーダー（ディーガ）を再生すると、本システムの入力が自動で“***BD/DVD***”に切り換わります。
テレビ（ビエラ）の音声を楽しむ	● テレビ（ビエラ）のリモコンで、チャンネル選択などの操作を行うと、本システムの入力が“***TV***”に切り換わります。
テレビ（ビエラ）のリモコンでサウンドモードを選ぶ ビエラリンク Ver.2 対応のみ	● ビエラリンク Ver. 2 に対応しているテレビ（ビエラ）のリモコンで、サウンドモードを変えることができます。 ● モード切り換え時、本システムの表示部に“***SOUND LINK***”と表示されます。 ● 入力ソースが 48 kHz を超えるサンプリング周波数の PCM のときは、この機能は使えません。 ● 詳しくは、テレビ（ビエラ）の取扱説明書をご覧ください。
テレビ（ビエラ）に接続した機器の音声を楽しむ	● テレビ（ビエラ）の HDMI 入力に接続した機器を操作すると、本システムの入力が“***TV***”に切り換わります。
ビエラリンクを使わない設定にする 本システムのリモコンで操作する	1. [-テスト/-設定] 約 2 秒間押したままにする 2. [◀][▶] 押して“***HDMI***”を選び、[決定] 押して決定 3. [◀][▶] 押して“***CTRL***”を選び、[決定] 押して決定 4. [▲][▼] 押して“***OFF***”を選び、[決定] 押して決定 ***OFF***：連動しないとき、***ON***：連動するとき（初期設定） 5. [バランス 戻る] 数回押して“***EXIT***”を選び、[決定] 押して設定を終える

ビエラリンク Q & A

Q（質問）	A（回答）
使っているテレビやレコーダーがビエラリンク対応かわからない？	接続した機器にビエラリンクのロゴマーク（➜ 下記）が付いているかお確かめになるか、それぞれの説明書をご覧ください。 VIERA Link
ビエラリンクが働かなくなったときは？	● 接続した機器側のビエラリンクの設定を確認してください。 ● HDMI 機器の接続を変更したとき、停電やコンセントの抜き差しをしたときなどにビエラリンクが動作しなくなる場合があります。このときは、以下の操作をしてください。 • HDMI ケーブルで接続したすべての機器の電源を入れた状態で、テレビ（ビエラ）の電源を入れ直す。 • テレビ（ビエラ）の「ビエラリンク制御（HDMI 機器制御）」の設定を「しない」に変更し、再度「する」に設定する。（詳しくはビエラの取扱説明書をご覧ください。） • テレビ（ビエラ）と HDMI ケーブルで接続して、テレビ（ビエラ）の電源を入れ、そのまま本システムの電源プラグを一度抜いてから接続し直す。

便利な機能・設定

サブウーハーレベルを調整する

再生中に、サブウーハーの出力レベルを調整できます。

サブウーハーレベル [−][+] 押して調整する　SUBW 10

調整範囲：*OFF*、*MIN*、*1* ～ *19*、*MAX*

- “*OFF*”を選ぶとサブウーハーから音が出ません。
- 音がひずむ場合はレベルを下げてください。

センターレベルを調整する

再生中に、センタースピーカーの出力レベルを調整できます。

センターレベル [−][+] 押して調整する　C +10

調整範囲：*−10* ～ *+10*
初期設定：*0*

- 音がひずむ場合はレベルを下げてください。
- ステレオモードや 2 CH MIX モードになっている場合（ ➜ 20 ページ）は、センターレベルの調整はできません。

ゲーム（サウンド）を使用する

迫力のあるサウンドでゲームが楽しめます。

ゲーム 押す　GAME

■ **解除する**　もう一度押す
解除すると、ドルビーバーチャルスピーカーとドルビープロロジックⅡが「入」の状態になります。

本体でも設定できます

この機能が「入」のときは、操作部の [ゲーム（サウンド）] インジケーターが点灯（青色）します。（[SFC 映画] で *“GAME”* を選んでも（ ➜ 21 ページ）インジケーターが点灯します。）

一時的に音を消す

機能が働いている間、表示部に“*MUTING IS ON*”とくり返し表示（スクロール）されます。

消音 押す　MUTING IS ON

■ **解除する**　もう一度押す

- 電源を切ると解除されます。
- 音量を調整すると解除されます。

音量バランスの調整をする

左右フロントスピーカーの出力バランスを調整できます。
L：フロントスピーカー（左）
R：フロントスピーカー（右）

1　“*BALANCE*”を選ぶ

バランス（戻る） 押す　BALANCE

2　調整する

押す　L I R

- バーの表示はあくまでも目安です。

音質の調整をする

BASS（低音）と TREBLE（高音）を調整できます。

- アナログ、PCM の 2 チャンネル信号をステレオ再生するときのみ有効です。

1　テスト/設定　約 2 秒間押したままにする

2　押して“*BASS*”または“*TREBLE*”を選び　BASS 0　TREBLE 0　➡ 決定 押して決定

REAL C.、※*BASS*、※*TREBLE*、*HDMI*、*TV DELAY*、*DUAL PRG*、*DRCOMP*、*ATTENUATOR*、*REMOTE*、*INPUT MODE*、*RESET*、*EXIT*

- “*EXIT*”を選んで決定すると、設定モードを終了します。

3　押して調整する　BASS 0　TREBLE 0　➡ 決定 押して決定

調整範囲：*−6* ～ *+6*
初期設定：*0*

4　バランス（戻る） 数回押して“*EXIT*”を選び　EXIT　➡ 決定 押して決定

■ 一つ前に戻る／キャンセルする　バランス（戻る） 押す

※音質調整が有効な場合のみ表示されます。

スピーカーの音量調整をする

視聴位置で、フロントスピーカーの音と各スピーカーの音がバランスよく聞こえるように、スピーカーの出力レベルを調整します。

1. [テスト/設定] 押す
   - 表示：TEST L（スピーカー表示）
   - ● 約 2 秒間隔で下記の順にテスト信号が出力されます。
   - ***L***（フロント左）→ ***C***（センター）→ ***R***（フロント右）→ ***SUBW***（サブウーハー）
2. [音量 −/+] 押して、フロントスピーカーを通常聞く音量にする
   - 表示：VOLUME 32
3. [サブウーハーレベル −/+] または [センターレベル −/+] 押して、各スピーカーの音量を調整する
   - 表示：SUBW 10
   - 調整範囲：***OFF***、***MIN***、***1*** ～ ***19***、***MAX***
   - 表示：C +10
   - 調整範囲：***–10*** ～ ***+10***
   - 初期設定：***0***
   - ● フロントスピーカー自体の調整できません。
   - ● 調整しているスピーカーからのみテスト信号が出力されます。
   - ● 操作後、約 2 秒経つと、再び順に出力されます。
4. [テスト/設定] 押して、操作を終了する

リアルセンター機能

サラウンド再生の場合に、センタースピーカーのセリフの音を聞きやすくします。

初期設定は “***ON***” になっています。“***OFF***” にしたいときは、右記の操作をしてください。

1. [テスト/設定] 約 2 秒間押したままにする
2. [◀ ▶] 押して “***REAL C.***” を選び
   - 表示：REAL C. → [決定] 押して決定
   - ***REAL C.***、※***BASS***、※***TREBLE***、***HDMI***、***TV DELAY***、***DUAL PRG***、***DRCOMP***、***ATTENUATOR***、***REMOTE***、***INPUT MODE***、***RESET***、***EXIT***
   - ● “***EXIT***” を選んで決定すると、設定モードを終了します。
3. [▲ ▼] 押して “***OFF***” を選び
   - 表示：OFF → [決定] 押して決定
   - ***ON***（入）、***OFF***（切）　初期設定：***ON***
   - ● “***ON***” や “***OFF***” を選んだ時点で効果は切り換わります。ただし、確定するために [決定] を押してください。
4. [バランス/戻る] 数回押して “***EXIT***” を選び
   - 表示：EXIT → [決定] 押して決定
   - ■ 一つ前に戻る／キャンセルする　[バランス/戻る] 押す

本システムの電源「切」時の消費電力を下げる（省待機電力モード）

このモードでは HDMI 接続をしている場合、スタンバイスルー機能（➜ 12、30 ページ）は働きません。
電源「切」時の ビエラリンク（➜ 22、23 ページ）は無効になります。

1. [テスト/設定] 約 2 秒間押したままにする
2. [◀ ▶] 押して “***HDMI***” を選び
   - 表示：HDMI → [決定] 押して決定
   - ***REAL C.***、※***BASS***、※***TREBLE***、***HDMI***、***TV DELAY***、***DUAL PRG***、***DRCOMP***、***ATTENUATOR***、***REMOTE***、***INPUT MODE***、***RESET***、***EXIT***
   - ● “***EXIT***” を選んで決定すると、設定モードを終了します。
3. [◀ ▶] 押して “***STNBY***” を選び
   - 表示：STNBY ON → [決定] 押して決定
   - ***STNBY***、***CTRL***
4. [▲ ▼] 押して “***OFF***” を選び
   - 表示：STNBY OFF → [決定] 押して決定
   - ***OFF***：電源「切」時の消費電力を下げる（約 0.2 W）
   - ***ON***：電源「切」時に「スタンバイスルー」を有効にする（通常の消費電力）
   - 初期設定：***ON***
5. [バランス/戻る] 数回押して “***EXIT***” を選び
   - 表示：EXIT → [決定] 押して決定
   - ■ 一つ前に戻る／キャンセルする　[バランス/戻る] 押す

※音質調整が有効な場合のみ表示されます。

便利な機能・設定（つづき）

音声を映像よりも遅らせて出力する

映像が音声よりも遅れている場合に、音声を約40 msec 遅らせて、映像に近づけます。

初期設定は“*ON*”になっています。ブラウン管テレビなど、音声を遅らせる必要がない場合は、右記の設定をしてください。

1

約２秒間押したままにする

2 押して“***TV DELAY***”を選び

押して決定

REAL C.、※*BASS*、※*TREBLE*、*HDMI*、*TV DELAY*、*DUAL PRG*、*DRCOMP*、*ATTENUATOR*、*REMOTE*、*INPUT MODE*、*RESET*、*EXIT*

● “***EXIT***”を選んで決定すると、設定モードを終了します。

3 押して“***OFF***”を選び 決定 押して決定

ON（入）、*OFF*（切） 初期設定：***ON***

4 バランス 戻る 数回押して“***EXIT***”を選び 決定 押して決定

■ 一つ前に戻る／キャンセルする　バランス 戻る 押す

二重音声を切り換える

AAC 信号の二重音声（受信すると“***DUAL PRG***”と表示）を切り換えることができます。

1 テスト/設定 約２秒間押したままにする

2 押して“***DUAL PRG***”を選び

押して決定

REAL C.、※*BASS*、※*TREBLE*、*HDMI*、*TV DELAY*、*DUAL PRG*、*DRCOMP*、*ATTENUATOR*、*REMOTE*、*INPUT MODE*、*RESET*、*EXIT*

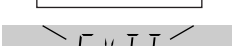
● “***EXIT***”を選んで決定すると、設定モードを終了します。

3 押して音声を選び 決定 押して決定

MAIN（主音声）、***SUB***（副音声）、***M+S***（主＋副音声） 初期設定：***MAIN***

4 バランス 戻る 数回押して“***EXIT***”を選び　EXIT 決定 押して決定

■ 一つ前に戻る／キャンセルする　バランス 戻る 押す

小音量でも聞きやすくする

ドルビーデジタルに対するダイナミックレンジ圧縮機能です。

音声信号の最大音と最小音の差を圧縮し、音場に影響することなく小音量でもセリフを聞きやすくします。
深夜など大きな音を出せない場合に便利です。

1 テスト/設定 約２秒間押したままにする

2 押して“***DRCOMP***”を選び

決定 押して決定

REAL C.、※*BASS*、※*TREBLE*、*HDMI*、*TV DELAY*、*DUAL PRG*、*DRCOMP*、*ATTENUATOR*、*REMOTE*、*INPUT MODE*、*RESET*、*EXIT*

● “***EXIT***”を選んで決定すると、設定モードを終了します。

3 押して設定を選び

決定 押して決定

OFF：通常の再生　***STANDARD***：ソフト制作者が家庭用として推奨する圧縮レベル
MAX：深夜視聴を前提とした最大の圧縮

初期設定：***OFF***

4 バランス 戻る 数回押して“***EXIT***”を選び　EXIT 決定 押して決定

■ 一つ前に戻る／キャンセルする　バランス 戻る 押す

アッテネーターを切り換える

アナログ入力で再生中、音がひずみ、表示部に“***OVERFLOW***”が点滅表示した場合は“***ON***（入）”にしてください。

1 テスト/設定 約２秒間押したままにする

2 押して“***ATTENUATOR***”を選び

押して決定

REAL C.、※*BASS*、※*TREBLE*、*HDMI*、*TV DELAY*、*DUAL PRG*、*DRCOMP*、*ATTENUATOR*、*REMOTE*、*INPUT MODE*、*RESET*、*EXIT*

● “***EXIT***”を選んで決定すると、設定モードを終了します。

3 押して“***ON***”を選び 決定 押して決定

ON（入）、*OFF*（切） 初期設定：***OFF***

4 バランス 戻る 数回押して“***EXIT***”を選び

決定 押して決定

■ 一つ前に戻る／キャンセルする　バランス 戻る 押す

※音質調整が有効な場合のみ表示されます。

入力信号の判別方法を切り換える

“*AUTO*”（購入時の設定）でほとんどの場合問題なく再生できますが、PCM や DTS の音声が正しく再生できないときは、あらかじめ固定して再生してください。

ノイズが発生する場合は、“*AUTO*”に戻してください。

1 テスト/設定 約 2 秒間押したままにする

2 ◀ ▶ 押して“*INPUT MODE*”を選び → 決定 押して決定

REAL C.、※*BASS*、※*TREBLE*、*HDMI*、*TV DELAY*、*DUAL PRG*、*DRCOMP*、*ATTENUATOR*、*REMOTE*、*INPUT MODE*、*RESET*、*EXIT*

● “*EXIT*”を選んで決定すると、設定モードを終了します。

3 ◀ ▶ 押して入力を選び → 決定 押して決定

TV、*DVD*、*AUX1*、*AUX2*

4 ▲ ▼ 押して入力信号の判別方法を選び → 決定 押して決定

AUTO：自動判別　*ANLG*：アナログに固定
DIG：デジタルに固定　*PCM*：PCM（音楽 CD など）のデジタルに固定
DTS：DTS のデジタルに固定

初期設定：*AUTO*

■手順 3 と 4 を繰り返し、設定を変更

5 バランス 戻る 数回押して“*EXIT*”を選び → 決定 押して決定

■ 一つ前に戻る／キャンセルする　バランス 戻る 押す

購入時の設定に戻す（リセット）

本システムの設定を購入時の状態に戻します。

1 テスト/設定 約 2 秒間押したままにする

2 ◀ ▶ 押して“*RESET*”を選び → 決定 押して決定

REAL C.、※*BASS*、※*TREBLE*、*HDMI*、*TV DELAY*、*DUAL PRG*、*DRCOMP*、*ATTENUATOR*、*REMOTE*、*INPUT MODE*、*RESET*、*EXIT*

● “*EXIT*”を選んで決定すると、設定モードを終了します。

3 ▲ ▼ 押して“*YES*”を選び → 決定 押して決定

YES、*NO*

● “*YES*”を選ぶと、すべての設定がリセットされ、自動的に入力が“*BD/DVD*”になります。
● “*NO*”を選ぶと、手順 2 に戻ります。設定モードを終了させるには、[バランス、戻る] を数回押して“*EXIT*”を表示させ、[決定] を押してください。

2 つ以上の当社製機器（ミニコンや AV アンプなど）をお使いの場合

2 つ以上の当社製オーディオ機器を使う場合、本システムのリモコンを使用すると複数の機器が動作することがあります。その場合は、本システムのリモコンコードを“*REMOTE 2*”に切り換えてください。下記の操作で、本体とリモコンのコードを同じ番号に設定します。

本体側設定（リモコンを使用）

1 テスト/設定 約 2 秒間押したままにする

2 ◀ ▶ 押して“*REMOTE*”を選び → 決定 押して決定

REAL C.、※*BASS*、※*TREBLE*、*HDMI*、*TV DELAY*、*DUAL PRG*、*DRCOMP*、*ATTENUATOR*、*REMOTE*、*INPUT MODE*、*RESET*、*EXIT*

● “*EXIT*”を選んで決定すると、設定モードを終了します。

3 ▲ ▼ 押して“*2*”を選び → 決定 押して決定

1、*2*　初期設定：*1*

● 設定モードを終了させるには、手順 4 のあと［バランス、戻る］を数回押して“*EXIT*”を表示させ、［決定］を押してください。

リモコン側設定

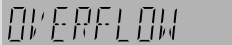
4 決定 押したまま BD/DVD 押す（2 秒以上）

☞ リモコンコードを「1」に戻す場合

1. 手順 3 で“*1*”を選ぶ
2. 手順 4 で [決定] を押したまま [テレビ] を押す（2 秒以上）

※音質調整が有効な場合のみ表示されます。

故障かな !?

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。
なお、これらの処置をしても直らない場合や、この表以外の症状は、お買い上げの販売店にご相談ください。

	こんなときは	ここを処置・確認してください	ページ
共通	電源が入らない。	● 電源プラグがコンセントに正しく接続されているか、確認してください。	17
	機器の再生を始めても音や映像が出ない。	● 入力ソースを正しく選択してください。 ● 消音を解除してください。 ● 本システムで再生できるデジタル信号か確認してください。 サンプリング周波数が 96 kHz を超える PCM 信号の場合、正常に再生されません。 ● 機器が正しく接続されているか確認してください。 ●「入力信号の判別方法を切り換える」で “***DIG***” または “***ANLG***” に設定してください。 ●「入力信号の判別方法を切り換える」で “***AUTO***” に設定してください。 ● 本システムの電源を「切 / 入」してください。	18、19 24 19 12～16 27 27 –
	リモコンが働かない。	● 電池が消耗している場合は電池を交換してください。	7
	電源を切っても機能待機ランプが点灯する。	● コンセントに電源コードを接続すると、電源「切」のときに [機能待機] ランプが点灯します。なお、電源「入」にすると消灯します。	17
	DVD プレーヤーにマイクを接続してカラオケを楽しもうとしたが、マイクの音が出ない。	● DVD プレーヤーと本システムをデジタル接続している場合はマイクの音は出力されません。アナログ接続して、アナログ入力にしてください。	14、27
	DTS の音声が出ない。 音声は出るが DTS 表示が点灯しない。	● DVD レコーダーまたは DVD プレーヤーのデジタル音声出力の設定が、ビットストリームであることを確かめてください。 ●「入力信号の判別方法を切り換える」で “***DTS***” に設定してください。	– 27
	DVD オーディオを再生しても音が出ない	● 光などのデジタル接続の場合、著作権保護の理由などで音声が出ないディスクがあります。また、48 kHz を超えるサンプリング周波数の音声も再生されないことがあります。	–
	“U30 REM2” または ***“U30 REM1”*** が表示される。	● リモコンコードを設定し、本体とリモコンのコードを合わせてください。 “***U30 REM2***” が表示された場合、リモコン側設定を “***2***” にしてください。 “***U30 REM1***” が表示された場合、リモコン側設定を “***1***” にしてください。	27
	音が出なくなった。 （***“OVERLOAD”*** が約 1 秒間表示される。） 本機は異常を検出すると、保護回路が働いて、電源を自動的に切ります。	● スピーカーコードの ⊕ と ⊖ がショートしていませんか。 ● 著しい大音量で聞いていませんか。 ● 異常に暑い場所で使用していませんか。 ⇒ 原因を解消して、しばらく待ってから再び電源を入れてください。 （保護回路の動作が解除されます。） （それでも同じ現象が起こる場合は販売店にご相談ください。）	6 – –
音場効果	サラウンドで音が聞こえない。	● ドルビーバーチャルスピーカーまたは SFC を設定してください。	20、21
	ドルビーバーチャルスピーカー、SFC が使えない。	● サンプリング周波数が 48 kHz を超える PCM 信号のときは使用できません。アナログ接続して、アナログ入力にしてください。	14、27
	BS デジタル放送で二重音声放送の切り換えができない。	● BS デジタルチューナーの音声出力を AAC に切り換えてください。	–
HDMI	U70-1-1 が表示される。	● HDMI 接続した機器が、本システムの著作権保護に対応していません。	–
	U70-1-2 が表示される。	● HDMI 接続で、本システムが対応していない映像フォーマットを受信しました。接続した機器の設定を確認してください。	–
	U70-3 が表示される。	● HDMI 接続で異常があります。以下の処置をしてください。 それでも直らないときは、販売店にご相談ください。 －接続した機器の電源を「切 / 入」してください。 － HDMI ケーブルを抜き差ししてください。 －本システム出力側の接続台数が 2 台を超えないようにしてください。	 – – –
	HDMI 接続で、始めの数秒間の音声が再生されない。	DVD をチャプターから再生した場合に、起こることがあります。以下の処置をしてください。 ① BD レコーダー、DVD レコーダー、DVD プレーヤーなどのデジタル音声出力の設定をビットストリーム設定から PCM 設定にしてください。 ②「入力信号の判別方法を切り換える」で “***PCM***” に設定してください。	 – 27
	正常に動作しない。	● HDMI の入力端子と出力端子を間違えて接続すると、正常に動作しません。接続し直すときは、一度電源を切り、電源プラグを抜いてから接続してください。	12
	ビエラリンクが働かなくなった。	● HDMI ケーブルで接続したすべての機器の電源を入れた状態で、テレビ（ビエラ）の電源を入れ直してください。 ● テレビ（ビエラ）の「ビエラリンク制御（HDMI 機器制御）」の設定を「しない」に変更し、再度「する」に設定してください。（詳しくはテレビ（ビエラ）の取扱説明書をご覧ください。） ● テレビ（ビエラ）と HDMI ケーブルで接続して、テレビの電源を入れ、そのまま本システムの電源プラグを一度抜いてから接続し直してください。	– – –

Q&A（よくあるご質問）

Q（質問）	A（回答）
マイクを接続したい。	本システムには接続できません。
長時間使用すると、本システムが熱くなるが、大丈夫か。	大丈夫です。 ただし、後面の冷却ファンを物でふさぐなど、放熱を妨げることはしないでください。
デジタル接続で、DVD オーディオを再生しても音が出ない。	本システムは CPPM に対応していますので、HDMI ケーブルで接続すると、DVD オーディオの音声を楽しむことができます。（➜ 12 ページ）
サラウンドスピーカーを追加して接続できるか。	本システムではできません。
他のアンプやスピーカーを接続できるか。	本システムではできません。
引っ越しするのだが、そのまま使えるか。	東日本、西日本に関係なく使えます。

こんな表示が出たら

表示	調べるところ・原因・対策	ページ
F76 （表示したあと、電源が切れます。） FAN LOCK	● スピーカーコードがショートしていませんか。または異常に温度が高い場所で本システムを使用していませんか。 ● カーテンや異物により、冷却ファンが止まっていませんか。 原因を解消のうえ、電源を入れ直してください。それでも直らない場合は、電源プラグを抜いたうえで、販売店にご相談ください。	– –
F70 □□□□ （□ には“*DSP*”または“*HDMI*”が表示されます。）	● 電源を切り、電源プラグを抜いたうえで、販売店にご相談ください。	–
OVERFLOW	● アッテネーターの切り換えを行ってください。	26
NOT POSSIBLE FOR THIS INPUT SOURCE （スクロール表示）	● 入力ソース（音源）が二重音声ではないので、二重音声の切り換えができません。	26
NOT POSSIBLE FOR THIS PCM SOURCE （スクロール表示）	● サンプリング周波数が 48 kHz を超える PCM 信号のときは、ドルビーバーチャルスピーカーと SFC は使用できません。	20、21

主な仕様

■ アンプ部

実用最大定格
- フロント（L/R）　40 W + 40 W（1 kHz、4 Ω、JEITA）
- センター　40 W（1 kHz、4 Ω、JEITA）
- サブウーハー　100 W（100 Hz、6 Ω、JEITA）

負荷インピーダンス
- フロント（L/R）　4 Ω
- センター　4 Ω
- サブウーハー　6 Ω

入力感度 / 入力インピーダンス
- BD/DVD、テレビ、外部入力 1、外部入力 2　450 mV/47 kΩ

信号対雑音比（S/N 比）
- テレビ、外部入力 1、BD/DVD（デジタル入力）　80 dB

デジタル入力	（光）	2
	（同軸）	1
HDMI	（入力）	1
	（出力）	1

本システムは、ビエラリンク Ver.2 に対応しています。

■ 総合

電源　AC 100 V、50/60 Hz
消費電力（本体）　110 W

電源スタンバイ時の消費電力	約 0.6 W
省待機電力モード時の消費電力	約 0.2 W

■ ラックシステム部

（SC-HTR300）
寸法（幅×高さ×奥行き）　1300 mm × 400 mm × 458 mm
質量　約 47.1 kg
耐荷重量　80 kg

（SC-HTR200）
寸法（幅×高さ×奥行き）　1080 mm × 400 mm × 458 mm
質量　約 42.1 kg
耐荷重量　80 kg

■ スピーカーシステム部

フロント（L/R）/ センター　6.5 cm × 3
ハイブリッド 2Way コーンタイプスピーカー
サブウーハー　13 cm × 2
デュアルドライブサブウーハー

注）
1. この仕様は、性能向上のため変更することがあります。
2. 全高調波ひずみ率は、スペクトラムアナライザーによる第 10 次高調波までの総和です。

「JIS C 61000-3-2 適合品」
：JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性－第 3-2 部：限度値－高調波電流発生限度値（1 相当たりの入力電流が 20 A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

用語解説

アナログ
一般的な再生機器に装備されている左（L）/ 右（R）音声出力端子からの音声を、アナログ音声と呼びます。

サラウンド信号
フロント、センター、サラウンドスピーカーで構成された音声信号です。本システムでは、サラウンド信号は自動的にドルビーバーチャルスピーカーで再生します。

サンプリング周波数
サンプリングとは、音の波（アナログ信号）を一定時間の間隔で刻み、刻まれた波の高さを数値化（デジタル信号化）することです。１秒間に刻む回数をサンプリング周波数といい、回数が多ければ多いほど原音に近い音を再現でき、高音質になります。

スタンバイスルー機能
本システムとテレビ、レコーダーを HDMI ケーブルで接続すると、本システムの電源を切っても、レコーダーからの映像 / 音声信号が本システムを通過して、テレビへ伝送される機能です。
深夜の視聴など、テレビのスピーカーだけで楽しみたいときに便利です。

ダイナミックレンジ
機器が出すノイズにうもれてしまわない最小音と、音割れしない最大音との音量差のことです。

デコーダー、デコード
DVD などに符号化して記録した音声データを通常の音声信号に戻す装置をデコーダーといいます。また、この処理をデコードといいます。

デジタル
デジタル端子は一般的に、BD レコーダー、DVD レコーダー、DVD プレーヤー、CD プレーヤーなどに装備されています。
ドルビーデジタルや DTS などのデジタル音声を聴くときは、デジタル端子と接続しておく必要があります。

ドルビーサラウンド
ドルビーサラウンドは、ダイナミックで臨場感豊かな音響効果のために、左右 2 つのフロントチャンネル（ステレオ音声）、会話などを再生するセンターチャンネル（モノラル音声）、効果音のサラウンドチャンネル（モノラル音声）のアナログ 4 チャンネル方式を採用しています。サラウンドチャンネルの再生域は狭くなっています。

光（OPTICAL）デジタル
DVD や CD などのデジタル信号を入出力するための信号で光デジタルケーブルを使用して接続します。アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器に（OPTICAL）端子がある場合に使用できます。

AAC 信号
ＢＳデジタル放送に採用されている圧縮音声です。サラウンド音声を再生できます。

CPPM
コンテント　プロテクション　フォー　プリレコーディッド　メディア
Content Protection for Prerecorded Media の略。
DVD オーディオのファイルコピーを防止する著作権保護技術です。

ドルビー　デジタル
Dolby Digital（DVD など）
ドルビー研究所によって開発されたデジタルサラウンドシステムです。

ドルビー　プロ　ロジック
Dolby Pro Logic Ⅱ
ドルビーサラウンドだけでなく、2 チャンネル で記録されたあらゆるソースを、よりリアルな音場で 5.1 チャンネル 音声に変換します。従来の 2チャンネル 音声（モノラル音声は除く）だけで記録された古い映画も、5.1 チャンネル の迫力ある音声で楽しめます。本システムでは、ビデオや CD などのステレオソースにサラウンド効果をつけるときに使用されます。

ドルビー　バーチャル　スピーカー
Dolby Virtual Speaker
フロントスピーカー、センタースピーカー、サブウーハーだけで、サラウンドの効果を得られるシステムです。単なる仮想サラウンドと異なり、5.1 チャンネルにおける理想のスピーカー配置と人の聴覚との関係を表現します。

DTS（DVD など）
DTS 社が開発したデジタルサラウンドシステムです。

HDMI
ハイ　デフィニション　マルチメディア　インターフェイス
HDMI は High-Definition Multimedia Interface の略です。
１本のケーブルで映像と音声のデジタル信号が伝送できます。
また、コントロール信号も伝送できます。

PCM 信号（CD、DVD オーディオ など）
アナログ信号を圧縮せずに、デジタルでコード化された信号です。これは CD や DVD オーディオなどに使用されているデジタルオーディオ信号の形式です。

1125p (1080p)
デジタルハイビジョン映像の 1 つで、1/60 秒ごとに 1125 本の走査線を同時に流すプログレッシブ (順次走査) 方式です。

5.1 チャンネル サラウンド
「モノラル」は 1 つのスピーカーで、「ステレオ」は 2 つのスピーカーで音声を再生しますが、5.1 チャンネルサラウンドでは 5 つのスピーカーと 1 つのサブウーハ－が使われます。視聴位置前方に設置するセンタースピーカー 1 つ、フロントスピーカー 2 つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー 2 つで 5 チャンネル、サブウーハーは他のスピーカーよりも再生できる音域が狭いため 0.1 とし、すべてを使って再生することを 5.1 チャンネルサラウンド再生と言います。本システムでは、ドルビーバーチャルスピーカーで、5.1 チャンネルで聞いているような音響効果を楽しむことができます。

音のエチケット
楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。

音のエチケット
シンボルマーク

―このマークがある場合は―

ヨーロッパ連合以外の国の廃棄処分に関する情報

このシンボルマークは EU 域内でのみ有効です。
製品を廃棄する場合には、最寄りの市町村窓口、または販売店で、正しい廃棄方法をお問い合わせください。

安全上のご注意（必ずお守りください）

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■ **表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。**

⚠ **警告**	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠ **注意**	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■ **お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。**（下記は絵表示の一例です。）

	この絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。
	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

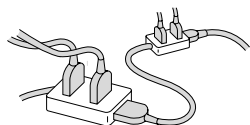
⚠ 警告

電源コード・プラグを破損するようなことはしない

［傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたりしない。］

傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。

- 抜くときは、プラグを持ち、まっすぐ抜いてください。
- コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、交流 100 V 以外での使用はしない

たこ足配線等で、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

機器内部に金属物を入れたり、水などの液体をかけたり濡らしたりしない

ショートや発熱により火災や感電の原因になります。

- 機器の上に水などの液体の入った容器や金属物を置かないでください。
- 特にお子様にはご注意ください。

異常があったときは電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

- **機器内部に金属や水などの液体、異物が入ったとき**
- **煙や異臭、異音が出たり、落下、破損したとき**

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

- 販売店にご相談ください。

電源プラグのほこり等は定期的にとる

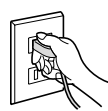
プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり火災の原因になります。

- 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない

ぬれ手禁止

感電の原因になります。

電源プラグは根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

- 傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使用しないでください。

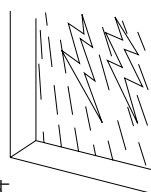
分解、改造をしない

分解禁止

内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。

- 内部の点検や修理は、販売店へご依頼ください。

雷が鳴ったら、機器や電源プラグに触れない

接触禁止

感電の原因になります。

本システムのイラスト（姿図）は、イメージイラストであり、ご購入のものとは形状が多少異なる場合がありますが御了承ください。

安全上のご注意（つづき）

⚠ 警告

電池は誤った使い方をしない

- 乾電池は充電しない
- 加熱・分解したり、水などの液体や火の中へ入れたりしない
- ⊕と⊖を針金などで接続しない
- 金属製のネックレスやヘアピンなどといっしょに保管しない
- ⊕と⊖を逆に入れない
- 新・旧電池や違う種類の電池をいっしょに使わない
- 被覆のはがれた電池は使わない
- 乾電池の代用として充電式電池を使わない

●取り扱いを誤ると、液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、火災や周囲汚損の原因になります。
●電池には安全のために被覆をかぶせています。これをはがすとショートの原因になりますので、絶対にはがさないでください。

使い切った電池は、すぐに機器から取り出す

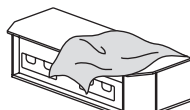
そのまま機器の中に放置すると、電池の液もれや、発熱、破裂の原因になります。

電池の液がもれたときは、素手で液をさわらず、以下の処置をする

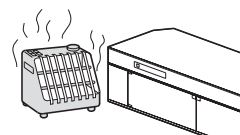
- 液が目に入ったときは、失明の恐れがあります。目をこすらずに、すぐにきれいな水で洗ったあと、医師にご相談ください。
- 液が身体や衣服に付いたときは、皮膚の炎症やけがの原因になるので、きれいな水で十分に洗い流したあと、医師にご相談ください。

⚠ 注意

放熱を妨げない

内部に熱がこもると、機器のケースが変形したり、火災の原因になります。

油煙や湯気の当たるところや湿気やほこりの多いところに置かない

電気が油や水分、ほこりを伝わり、火災や感電の原因になることがあります。

異常に温度が高くなるところに置かない

機器表面や部品が劣化するほか、火災の原因になることがあります。
●直射日光の当たるところ、ストーブの近くでは特にご注意ください。

長期間使わないときや、お手入れのときは、電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

通電状態で放置、保管すると、絶縁劣化、ろう電などにより、火災の原因になることがあります。

コードを接続した状態で移動しない

接続した状態で移動させようとすると、コードが傷つき火災や感電の原因になることがあります。

また、引っかかったりして、けがの原因になることがあります。

機器に乗ったり、ぶらさがったり、もたれたりしない

倒れたりして、けがの原因になることがあります。

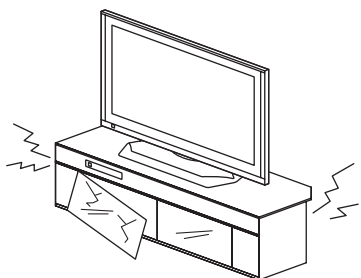
●特にお子様にはご注意ください。

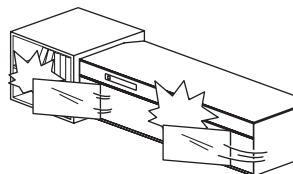
長期間使わないときは、リモコンから電池を取り出す

電池の液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、火災や周囲汚損の原因になることがあります。

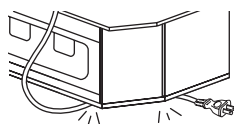
本システムのイラスト（姿図）は、イメージイラストであり、ご購入のものとは形状が多少異なる場合がありますが御了承ください。

⚠ 注意

万一、ラックやガラスに変形・ひび割れ・割れが起こった場合は、使用しない

そのまま使用すると倒れたり、破損してけがの原因となることがあります。すぐに販売店へご連絡ください。

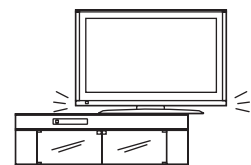
ガラス扉を傷つけたり、衝撃を与えない

ガラスは強化ガラスです。使い方を誤ると割れる恐れがあり、けがの原因となることがあります。

- 鋭利なものや、とがったものなどで傷をつけないでください。
- 強化処理をしたガラスは、傷が入った状態で長期間ご使用になりますと、傷が進行し自然に破損することがあります。
- 傷が入った場合は、販売店に相談して、新しいガラスと取り替えてください。

ラックの下に電源コードをはさみ込まない

電源コードの被膜が破れ、感電、火災の原因となることがあります。

テレビは転倒防止の処置をする

地震やお子様がよじ登ったりすると、転倒しけがの原因となることがあります。テレビの取扱説明書および転倒防止説明書を参照ください。

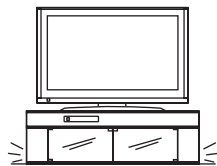
テレビの据え置きスタンドをラックよりはみ出したり、片寄った載せかたをしない

倒れたり、破損してけがの原因となることがあります。

棚板・底板には指定した重量以上の機器を載せない

- ラックに載せられる総質量（各棚に載せる機器の質量・底板に載せる機器の質量）を超えて長期間使用されますと破損してけがの原因となることがあります。
- 棚板は各 12 kg、底板は 20 kg を超える機器を載せないでください。
- 天板には、テレビ以外の物を置かないでください。

扉の開閉時には、指をはさまないように注意する

扉の開閉はゆっくりとしてください。

水平で安定した所に据え付ける

倒れたり、破損してけがの原因となることがあります。

組み立て時、ねじ止めをする箇所は、すべてしっかりと止める

不十分な組み立てかたをすると強度が保てず、倒れたり、破損してけがの原因となることがあります。

お手入れ

柔らかい布でふいてください。
ひどい汚れは、薄めた台所用洗剤（中性）を含ませた布でふき、後はからぶきしてください。

- アルコールやシンナーは使わないでください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。
- 粘着性のテープやシールを貼らないでください。

保証とアフターサービス（よくお読みください）

修理・お取り扱い・お手入れ
などのご相談は…
まず、お買い上げの販売店へ
お申し付けください

転居や贈答品などでお困りの場合は・・・

- 修理は、サービス会社・販売会社の「修理ご相談窓口」へ！
- 使いかた・お買い物などのお問い合わせは、「お客様ご相談センター」へ！

■ 保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保存してください。

保証期間：お買い上げ日から本体 1 年間

■ 補修用性能部品の保有期間

当社は、このホームシアターオーディオシステムの補修用性能部品を、製造打ち切り後 8 年保有しています。

注）補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理を依頼されるとき

28 ページの表に従ってご確認のあと、直らないときは、まず電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店へご連絡ください。

●保証期間中は

保証書の規定に従って、出張修理をさせていただきます。

●保証期間を過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご要望により修理させていただきます。右記の修理料金の仕組みをご参照のうえご相談ください。

●修理料金の仕組み

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

- **技術料**は、診断・故障箇所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。
- **部品代**は、修理に使用した部品および補助材料代です。
- **出張料**は、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

ご相談窓口における個人情報のお取り扱い

松下電器産業株式会社およびその関係会社は、お客様の個人情報やご相談内容を、ご相談への対応や修理、その確認などのために利用し、その記録を残すことがあります。また、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に提供しません。お問い合わせは、ご相談された窓口にご連絡ください。

ご連絡いただきたい内容			
製品名	ホームシアターオーディオシステム	お買い上げ日	年　　月　　日
品　番		故障の状況	できるだけ具体的に

「よくあるご質問」「メールでのお問い合わせ」などはホームページをご活用ください。
http://panasonic.jp/support/

修理に関するご相談

ナショナル パナソニック　修理ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通番号）　0570-087-087

- 呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
- 携帯電話・PHS・IP電話等、ナビダイヤルがご利用できない場合は、最寄りの修理ご相談窓口に直接おかけください。
- 最寄りの修理ご相談窓口は、次ページをご覧ください。

使いかた・お買い物などのご相談

ナショナル パナソニック　お客様ご相談センター

365日／受付9時～20時

電話　フリーダイヤル　0120-878-365（パナは 365日）

■携帯電話・PHSでのご利用は…　06-6907-1187

FAX　フリーダイヤル　0120-878-236

Help desk for foreign residents in Japan
Tokyo (03) 3256 - 5444　**Osaka** (06) 6645 - 8787
Open : 9:00 - 17:30 (closed on Saturdays/Sundays/national holidays)

※電話番号をよくお確かめの上、おかけください。

ナショナル パナソニック

修理ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通番号） 0570-087-087

• 呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
• 携帯電話・PHS・IP電話等、ナビダイヤルがご利用できない場合は、最寄りの修理ご相談窓口に直接おかけください。

• 地区・時間帯によって、集中修理ご相談窓口に転送させていただく場合がございます。

北海道地区

地域	所在地	電話番号
札幌	札幌市厚別区厚別南2丁目17-7	(011)894-1251
旭川	旭川市2条通16丁目1166	(0166)22-3011
帯広	帯広市西20条北2丁目23-3	(0155)33-8477
函館	函館市西桔梗589番地241（函館流通卸センター内）	(0138)48-6631

東北地区

地域	所在地	電話番号
青森	青森市大字浜田字豊田364	(017)775-0326
秋田	秋田市東通り2丁目1-7	(018)831-7833
岩手	盛岡市厨川5丁目1-43	(019)645-6130
宮城	仙台市宮城野区扇町7-4-18	(022)387-1117
山形	山形市平清水1丁目1-75	(023)641-8100
福島	郡山市亀田1丁目51-15	(024)991-9308

首都圏地区

地域	所在地	電話番号
栃木	宇都宮市上戸祭3丁目3-19	(028)689-2555
群馬	前橋市箱田町325-1	(027)254-2075
茨城	つくば市筑穂3丁目15-3	(029)864-8756
埼玉	桶川市赤堀2丁目4-2	(048)728-8960
千葉	千葉市中央区末広5丁目9-5	(043)208-6034
東京	東京都世田谷区宮坂2丁目26-17	(03)5477-9780
山梨	甲府市宝1丁目4-13	(055)222-5171
神奈川	横浜市港南区日野5丁目3-16	(045)847-9720
新潟	新潟市東明1丁目8-14	(025)286-0171

中部地区

地域	所在地	電話番号
石川	金沢市横川3丁目20	(076)280-6608
富山	富山市根塚町1丁目1-4	(076)424-2549
福井	福井市問屋町2丁目14	(0776)25-5001
長野	松本市寿北7丁目3-11	(0263)86-9209
静岡	静岡市葵区千代田7丁目7-5	(054)287-9000
愛知	名古屋市瑞穂区塩入町8-10	(052)819-0225
岐阜	岐阜市中鶉4丁目42	(058)278-6720
高山	高山市花岡町3丁目82	(0577)33-0613
三重	津市久居野村町字山神421	(059)255-1380

近畿地区

地域	所在地	電話番号
滋賀	栗東市霊仙寺1丁目1-48	(077)582-5021
京都	京都市伏見区竹田中川原町71-4	(075)646-2123
大阪	大阪市北区本庄西1丁目1-7	(06)6359-6225
奈良	大和郡山市筒井町800番地	(0743)59-2770
和歌山	和歌山市中島499-1	(073)475-2984
兵庫	神戸市中央区琴ノ緒町3丁目2-6	(078)272-6645

中国地区

地域	所在地	電話番号
鳥取	鳥取市安長295-1	(0857)26-9695
米子	米子市米原4丁目2-33	(0859)34-2129
松江	松江市平成町182番地14	(0852)23-1128
出雲	出雲市渡橋町416	(0853)21-3133
浜田	浜田市下府町327-93	(0855)22-6629
岡山	岡山市田中138-110	(086)242-6236
広島	広島市西区南観音8丁目13-20	(082)295-5011
山口	山口市小郡下郷220-1	(083)973-2720

四国地区

地域	所在地	電話番号
香川	高松市勅使町152-2	(087)868-6388
徳島	徳島市沖浜2丁目36	(088)624-0253
高知	高知市仲田町2-16	(088)834-3142
愛媛	愛媛県伊予郡砥部町八倉75-1	(089)905-7544

九州地区

地域	所在地	電話番号
福岡	春日市春日公園3丁目48	(092)593-9036
佐賀	佐賀市鍋島町大字八戸字上深町3044	(0952)26-9151
長崎	長崎市東町1949-1	(095)830-1658
大分	大分市萩原4丁目8-35	(097)556-3815
宮崎	宮崎市本郷北方字草葉2099-2	(0985)63-1213
熊本	熊本市健軍本町12-3	(096)367-6067
天草	本渡市港町18-11	(0969)22-3125
鹿児島	鹿児島市与次郎1丁目5-33	(099)250-5657
大島	名瀬市長浜町10-1	(0997)53-5101

沖縄地区

地域	所在地	電話番号
沖縄	浦添市城間4丁目23-11	(098)877-1207

所在地、電話番号が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

0906

さくいん

愛情点検　**長年ご使用のホームシアターオーディオシステムの点検を！**

こんな症状はありませんか	● 煙が出たり、異常なにおいや音がする ● 音が出ないことがある ● 正常に動作しないことがある ● 商品に破損した部分がある ● その他の異常や故障がある

▶ **このような症状の時は使用を中止し、故障や事故の防止のために、必ず販売店に点検をご相談ください。**

便利メモ（おぼえのため、記入されると便利です）

販売店名	☎（　　）　－	品番	
お客様ご相談窓口	☎（　　）　－	お買い上げ日	年　月　日

松下電器産業株式会社　ネットワーク事業グループ

〒 571-8504 大阪府門真市松生町 1 番 15 号

RQT8944-S
H0107RT0